

教育学研究科教員業績一覧

(2004年10月1日～2005年9月30日)

教育学コース

川本 隆 史(教授)

<著書(編著)>

- ・『岩波応用倫理学講義 4：経済』(岩波書店, 2005年7月, 総頁数300)
- ・『ケアの社会倫理学——医療・看護・介護・教育をつなぐ』(有斐閣, 2005年8月, 総頁数382)
- ・『リーディングス環境 第1巻：自然と人間』(淡路剛久, 植田和弘, 長谷川公一氏との共編, 有斐閣, 2005年8月, 総頁数406)

<論文(単著)>

- ・ケアの倫理と制度——三人のフェミニストを真剣に受けとめること(日本法哲学会編『法哲学年報2003：ジェンダー, セクシュアリティと法』, 有斐閣, 19-31頁, 2004年10月)
- ・記憶のケアから記憶の共有へ——エノラ・ゲイ展示論争の教訓(『思想』967号, 1-4頁, 2004年11月)

<学会発表>

- ・電腦兎はウェルビーイングの夢を見るか?(東北哲学会第54回大会・公開講演会, 2004年10月23日, 桜の聖母短期大学)
- ・シティズンシップ・公民・少国民——教育の対象と主体(教育文化学会第15年次大会・招聘講演, 2005年9月23日, 同志社大学)

今井 康 雄(助教授)

<論文>

- (共著) “In search of the public and private: philosophy of education in post-war Japan”, in: *Comparative Education*, Vol.20, No.4, 2004.11, pp.583-594 (斎藤直子との共著)。
- (単著)「アドルフ・ライビヴァインのメディア教育学——教育的抵抗とは何か」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第44巻, 2005年3月, 1-19頁。
- (単著)「メディアを通しての美的影響行使——「ヒトラー青年クヴェックス」の場合」『「美的なもの」の教育的影響に関する理論的・文化比較的研究』(平成14-16年度科学研究費補助金・基盤研究(B)(1)研究成果報告書, 課題番号 14310114, 研究代表

者・今井康雄), 2005年3月, 48-71頁。

<翻訳>

ボルツ「ニュー・メディア」, ヴルフ編『歴史的人間学事典』第2巻, 藤川信夫監訳, 勉誠出版, 2005年9月, 384-411頁。

<その他>

(単著)「基礎学力」——教育哲学の視点から, 基礎学力研究開発センター編『基礎学力』の再検討』(= Working Paper, vol. 16), 2005年7月, 1-12頁。

西 平 直(助教授)

<著書>

『教育人間学のために』(東京大学出版会, 2005年4月)252頁。

<論文>

- 「元型・イマージュ・変容——「魂の学としての心理学」のために」『岩波講座・宗教・10 宗教のゆくえ』(岩波書店, 2004年12月)135-159頁。
- 「霊性を大切にするとはいどういうことか——富坂キリスト教センター編『現代社会における霊性と倫理——宗教の根底にあるもの』(行路社, 2005年), 12-22頁。
- 「しなやかな強さを育てる——揺れながら, 迷いながら, 間違いながら」『児童心理』(金子書房, 2005年8月)10-15頁。
- 「からだ・いのち・無のはたらき——無の思想の地平から」『緩和ケア vol.15-no5 特集スピリチュアルケア』(青海社, 2005年9月)552-555頁。

<その他>

山梨日日新聞「時評」連載

「からだの声を聴く」4月17日

「穏やかで繊細な言葉」5月22日

「自分を大切にしている時間」6月26日

「心を耕す若き日の迷い」7月31日

「名前を残さないアート」9月4日

谷 本 宗 生(助手)

<論文>

「大学史編纂の課題～戦後の新制大学成立史～」全国

大学史資料協議会東日本部会『大学アーカイヴズ』第31号, 2004年10月, 1~2頁。

「第四高等中学校設立を支えたものの思い」1880年代教育史研究会『ニューズレター』第10号, 2005年2月, 2~3頁。

「第四高等中学校存立の動きについて」1880年代教育史研究会『ニューズレター』第12号, 2005年7月, 5~6頁。

「高等中学校設立にいたる背景」1880年代教育史研究会『ニューズレター』第13号, 2005年9月, 7頁。

<報告書>

「大学所蔵の歴史的資料の公開について(第1回研究会)コメント」西山伸研究代表『大学所蔵の歴史的資料の蓄積・保存ならびに公開に関する研究 平成16年度科学研究費補助金基盤研究C(1)研究成果報告書』2005年3月, 53~57頁。

<紹介>

「文書館・史料館めぐり 東京大学史史料室」日本歴史学会『日本歴史』第682号, 2005年3月, 97~98頁。

<書評>

「石川県専門学校洋書目録 明治日本の近代化に貢献した洋書」『金沢大学資料館だより』第25号, 2005年2月, 4~5頁。

<資料目録>

『渡邊洪基史料目録』(東京大学史史料室員と協同) 2005年3月。

<校閲>

「東京大学旧職員インタビュー 内田祥三談話速記録(五)」(中野実・藤井恵介・角田真弓と共同)『東京大学史紀要』第23号, 2005年3月, 41~75頁。

<新聞記事>

「あと一歩幻の帝国大学」『北陸中日新聞』2005年1月16日日刊, 20面。

<発表>

「第四高等中学校設置をめぐる問題」第10回旧制高等学校記念館夏期セミナー, 2005年7月。

比較教育社会学コース

広田照幸(教授)

<著書;単著>

『教育不信と教育依存の時代』紀伊國屋書店, 2005年3月9日, 255頁。

『『愛国心』のゆくえ—教育基本法改正という問題—』世織書房, 2005年9月1日, 264頁。

<著書;共著・編著>

『実業世界の教育社会史』昭和堂, 2004年10月25日(望田幸男と共編)。執筆箇所は, 序章『『実業世界の教育社会史』の可能性』1~25頁, 第9章「鉄道従業員の採用・昇進競争—戦間期国鉄の学歴間格差を中心に—」293~324頁。

『職業と選抜の歴史社会学—国鉄と社会諸階層』世織書房, 2004年10月30日(吉田文と共編)。執筆箇所は, 序論3~22頁, 第8章「学歴・身分・賃金—大正中期国鉄の実態—」257~282頁, 第9章「鉄道員の世界」283~304頁。

<雑誌論文, 編纂書収録論文>

「近代知の成立と制度化」歴史学研究会・日本史研究会編『講座日本史 第8巻 近代の成立』東京大学出版会, 2005年1月31日, 251~275頁。

<報告書>

(研究代表者広田照幸)『近代化過程における産業・労働政策と教育政策の整合・葛藤に関する比較社会学的研究』(平成14~16年度文部省科学研究費補助金(基盤研究(B)(1))研究成果報告書)2005年3月1日, 213頁。執筆箇所は, 序論「教育システムと産業・労働システムの整合・葛藤をどうみるべきか」, 第1章「グローバル化の中での教育システムと産業・労働システムの整合・葛藤—日本のケース—」, 第9章「戦前期中等工業教育をめぐる教育政策について—絶えざる失敗と意図せざる成功—」(1~18頁, 19~33頁, 147~169頁)。

東京大学大学院教育学研究科比較教育社会学コース編『『首都圏の私立中学生の生活・意識・行動に関する調査』研究報告書』(広田照幸・西島央・相澤真一・卯月由佳・齊藤知範・村山航・安藤理・池田宇太子, 尾島菜穂・中田朋子・中村有紀子・福井由紀子・福島俊和・湯川惇)2005年3月25日, 196頁。執筆箇所は「はじめに」(1~3頁)。

「イデオロギーとしての基礎学力」『『基礎学力』の再検討』文部科学省21世紀COEプログラムワーキングペーパー第16号, 東京大学大学院教育学研究科基礎学力研究開発センター, 2005年6月, 20~26頁。

<書評>

品田知美『〈子育て法〉革命—親の主体性をとりもどす—』(中央公論新社, 2004年)

『季刊家計経済研究』第67号, 2005年7月15日, 78~79頁

首藤美香子『近代的育児観への転換—啓蒙家三田

谷啓と一九二〇年代——』(劉草書房, 2004年)
『日本教育史研究』第24号, 日本教育史研究会,
2005年8月10日, 119~125頁。

<その他>

「なぜ進む 子供の勉強離れ」2005年1月16日『日本経済新聞』。

「教育学者と矯正実務家の連携・協力」『刑政』第116巻第2号, 矯正協会, 2005年2月1日, 138~139頁。

「あなたの国のことをもっと考えてね」『図書』2005年3月号(第671号), 岩波書店, 2005年3月1日, 18~21頁。

「教育の言葉と法規の言葉」『刑政』第116巻第5号, 矯正協会, 2005年5月1日, 166~167頁。

「子供たちみんなに対して共通に教える, ということ」『教育展望』第51巻第5号, 教育調査研究所, 2005年6月1日, 24~29頁。

(講演記録)「大正時代の新教育と社会——澤柳政太郎と成城学園の位置——」『成城教育』第128号, 2005年6月15日, 成城学園教育研究所, 26~49頁。

「教育の限界」『刑政』第116巻第8号, 矯正協会, 2005年8月1日, 154~155頁。

(座談会記録)「『競争の果て』に子どもは救われるか?」『月刊 子ども論』第20巻第9号, 2005年9月1日, クレヨンハウス, 6~20頁。(岡崎勝・神野直彦氏他と)

(座談会記録)「少年法と教育学の対話」『法学教室』第300号, 2005年9月1日, 有斐閣, 48~61頁。(川出敏裕・後藤弘子氏と)

「教育論の困難と変革の可能性」『アジェンダ 未来への課題』第10号, アジェンダ・プロジェクト, 2005年9月15日, 34~42頁。

荻谷剛彦(教授)

<著書>

『学力の社会学: 調査が示す学力の変化と学習の課題』荻谷剛彦, 志水宏吉編著 岩波書店 2004

『教育の世紀: 学び, 教える思想』荻谷剛彦著 シリーズ生きる思想; 7 弘文堂 2004

『考えあう技術: 教育と社会を哲学する』荻谷剛彦, 西研著 ちくま新書; 522 筑摩書房 2005

<論文>

「婦人公論井戸端会議 ゆとり教育見直してどういうこと?」松永真理; 荻谷剛彦; 楚阪博 『婦人公論』 90(19) 中央公論新社 160-165 2005

9.22

「見直すべきは人と金と時間の配分だ——教育資源論を問い直す」荻谷剛彦 『論座』 120 朝日新聞社 8-21 2005 5.1

「少子化時代の怪 教員が大量に不足する!——義務教育を襲う地殻変動」荻谷剛彦 『論座』 118 朝日新聞社 156-165 2005 3.1

「第19回「日本の教育を考える」研究会 揺らぐ義務教育の将来像——地方分権化と義務教育費国庫負担金制度のゆくえ」荻谷剛彦; 齋藤諦淳; 草原克豪, 政策科学研究所〔編〕 『21世紀フォーラム』 97(ISSN 09140840) 政策科学研究所 8-19 2005 3.1

「編集長インタビュー 荻谷剛彦氏[教育社会学者] 学力底割れを防げ」荻谷剛彦; 原田亮介, 日経BP社〔編〕 『日経ビジネス』 1281 (ISSN 00290491) 日経BP社 112-115 2005 2.28

「緊急特別寄稿 義務教育費国庫負担金制度と人件費の将来推定 なぜ, 基本的なデータなしに重大な政策変更が行われるのか」荻谷剛彦 『総合教育技術』 59(12) (ISSN 09110526) 小学館 93-97 2005 1.1

「学者が斬る(181)数合わせの「三位一体」改革は義務教育の不平等を拡大する」荻谷剛彦, 毎日新聞社〔編〕 『エコノミスト』 『エコノミスト』 毎日新聞社 6-69 2004 9.21

<書評>

「つながり方に着目, 野心的な社会研究」『スモールワールド・ネットワーク 世界を知るための新科学的思考法』ダンカン・ワッツ著 辻竜平・友知政樹訳 阪急コミュニケーションズ 『朝日新聞』 2004.12.12

『戦後日本の社会学 一つの同時代学史』富永健一著 東京大学出版会 『朝日新聞』 2005.2.13

「劣等感と信仰が生む「常識」への警告」『英語教育はなぜ間違っているのか』山田雄一郎著 ちくま新書 『朝日新聞』 2005.3.13

「起源は英国 教育論議の前提に光あてる」『<学究>の歴史学 自明視された空間を疑う』柳治男著 講談社選書メチエ 『朝日新聞』 2005.4.24

「カカオ輸出世界一を支える幼い奴隷」(『子どもたちのアフリカ』石弘之著 岩波書店) 『朝日新聞』 2005.6.5

『女子マネージャーの誕生とメディア』高井昌史著 ミネルヴァ書房 『朝日新聞』 2005.5.29

「一瞬で消えた希望 少女たちの原爆秘史」『チンチン電車と女学生 1945年8月6日・ヒロシマ』堀川恵子・小笠原信之著 日本評論社 『朝日新聞』 2005.7.31

『教育委員会廃止論』穂坂邦夫著 弘文堂 『朝日新聞』 2005.9.18

「新たな「管理社会」を読み解く試み」『ポストモダンの思想的根拠 9・11と管理社会』岡本裕一朗著 ナカニシヤ出版 『朝日新聞』 2005.9.25

『希望のノート』二神能基著 東洋経済新報社 『朝日新聞』 2005.7.17

<新聞>

「地方分権化の教委モデルの一例 指示待ちやめ 自ら課題設定を」『日本教育新聞』2004.10.8

「『二極論』では不十分」(「三位一体改革」の現場 地方はどう変わるのか) 『毎日新聞』 2004.10.11

「支出に対しても知事会は注視を」(「義務教育人件費 07年度以降3000億円増 今年度比学者試算 昇給・退職金かさむ」) 『朝日新聞』 2004.11.17

「公立小中校 教員人件費が急増 東大院機構試算 退職手当、定昇かさむ」『東京新聞』 2004.11.24 (コメント)

「できる子 できない子 二極化鮮明 「公教育弱体化」指摘も」『東京新聞』2004.12.8(コメント)

「すべての子に真に「生きる力」の体得を 分権化は教育を救うのか(荻谷教授が講演)第13回とちぎ教育振興大会」『教育新聞』 2004.12.2

「基礎身に付かず授業理解できぬ」(「国際数学・理科教育調査 「理数離れ」深刻」) 『東京新聞』 2004.12.15

「教育の階層格差を拡大 財政力の弱い地域は現状維持が困難に「国は金出し口は出さぬ」仕組みを」 『毎日新聞』 2004.12.20

「格差を縮める下支えが必要 国際学習到達度調査を読んで」『赤旗』 200.12.21

「できる子とできない子の格差広がる「総合学習」5日制」導入でしわ寄せ」『朝日中学生ウイークリー』 2004.12.26

「広がる成績の「格差」教える力の衰退危ぐ」(「トークバトル「どうなってるの? 子供の学力」インタビューなど」) 『静岡新聞』 2005.1.9

「選択の岐路 教育に重み 問われる真の「学ぶ意味」(「60年目の自由 第1部 子どもは「番外編」)」 『中日新聞』 2005.1.12

「常識」覆す義務教育の将来像」(「迫る教員大量退職

時代」) 『東京新聞』 2005.1.16

「知性の平等をどう実現するか 2つの国際学力調査から」『産経新聞』 2005.1.18

「短縮論議は疑問 現場中心で運用」(「総合的学習なぜ見直し?」) 『日本経済新聞』 2005.2.13

「大学全入時代でも「狭き門」負担増え機会均等は崩壊も」 『毎日新聞』 2005.3.13(コメント)

「『地道』のカッコよさ語る」(「土曜茶論 若者に希望を持たせるには」) 『読売新聞』 2005.3.26

「複眼的歴史観こそ大切 教科書検定を考える」 『朝日新聞』 2005.4.15

「社会性養う教育を研究」(「教育学研究科 荻谷剛彦教授「教育社会学」」) 『東京大学新聞』2005.4.12

「『ゆとり』の成果ではない」(「危機感バネ 基礎はアップ 全国一斉学力テスト文科相分析」) 『読売新聞』 2004.4.23

「家庭環境での格差拡大」(「学力調査結果 教師ら「努力報われた」一喜一憂いさめる声も」) 『朝日新聞』 2005.4.23

「学力低下に一部歯止め」(「小中学生・全国学力テスト特集」) 『東京新聞』2005.4.23

「教員の高齢化がもたらす教育の地殻変動」 『大学新聞』 2005.4.25

「公教育削られ「階層化」進行 教員の勤務 再考必要」 『信濃毎日新聞』 2005.4.25

「義務教育 危機は去らず 財源・人材不足必至に 家庭による学力差も拡大」 『日本経済新聞』 2005.5.23

「資源を再配分する義務教育 学力論争の死角」 『産経新聞』 2005.6.9

「総合的な学習 あり方検討を」(「子ども・保護者・教員らに義務教育意識調査」) 『朝日新聞』2005.6.19

「東大の60年」 『朝日新聞』 2005.8.22(コメント)

白石 さや(教授)

<執筆分担著書>

「国民統合と家族イメージ：国民文化としての家族の構築」比較家族史学会監修・田中真砂子他編『国民国家と家族・個人(シリーズ比較家族)』早稲田大学出版部 2005.9.30 pp.203-218

「マンガ・アニメのグローバリゼーション」, 近藤安月子, 丸山千歌編著『上級日本語教科書 文化へのまなざし』東京大学出版 2005.4.26 pp.110-121
五十嵐暁郎編『変容するアジアと日本——アジアに浸透する日本のポピュラーカルチャー』世織書

房, 1998年)からの再載

“Globalization of Japanese Manga & Anime,” Kim Changmin trans. & ed., *Cultural Logics in the Age of Globalization*, Hanul Publishing Company, 2005.5.20 pp.272-298 「マンガ・アニメのグローバル化」五十嵐暁郎編『変容するアジアと日本—アジアに浸透する日本のポピュラーカルチャー』世織書房, 1998年の韓国語訳出版)

<事典>

「アンダーソン, ベネディクト(1936—)Anderson, Benedict R.『想像の共同体: ナショナリズムの起源と流行』ベネディクト・アンダーソン著; 白石隆, 白石さや訳 NTT出版, 1997 *Imagined Communities: reflections on the origin and spread of nationalism*, London; New York: verso, 1983; rev. 1991』『文化人類学文献事典』弘文堂 14-15 2004.12.15

<その他>

「21世紀—観光のアジア」旅の文化研究所開設10周年記念特集『研究報告 第14号』旅の文化研究所 2004年12月

<学会発表・講演等>

“Media Culture: Children’s TV Programs and Appearance of “Childhood” in Asia,” 世界比較教育学会 第二回フォーラム(於北京師範大学)2005.8.23

「東アジアの文化伝統と創造のダイナミズム」, 東アジア・コミュニティ研究グループ研究会報告(於早稲田大学)2005年9月22日

矢野 眞 和(教授)

<単著>

『大学改革の海図』玉川大学出版部 2005.9

<論文>

「工学教育のレリバンス—学び習慣仮説」『IDE 現代の高等教育』2005.5

<研究報告書>

『工学教育のレリバンス』科学研究費補助金報告書(研究代表者) 2005.3

<雑誌論文>

「大学の市場化型改革と財政」『私学高等教育研究所シリーズ』No.19 2005.3

「将来への投資としての国立大学」『21世紀日本と国立大学の役割』国立大学協会 2005.3

「大学を変える—青山学院大学の挑戦」『カレッジマネジメント』2005.3

「大学を変える—武庫川女子大学の挑戦」『カレッジマネジメント』2005.7

「大学を変える—中京大学の挑戦」『カレッジマネジメント』2005.9

<国際会議・学会発表・その他>

“Reconsidering the Role of University” International Symposium on University for the Society (Osaka University) 2005.1

「工学系大卒者の学習歴・キャリア・社会的地位」(共同)日本高等教育学会第8回大会研究報告 2005.5

「これからの日本社会と教育」(対談)『季刊家計経済研究』No.67 2005.7

「中田照子編著『国際比較・働く夫婦の生活時間』」(書評)『日本労働研究雑誌』 2005.8

「高等教育における市場化の社会経済的文脈—市場化から市場化へ」大学経営政策国際シンポジウム報告(東京大学) 2005.9

恒 吉 僚 子(助教授)

『教育研究のメソドロジー—教育参加型マインドへのいざない』秋田喜代美・恒吉僚子・佐藤学編(共編)東京大学出版協会, 2005。

「教育におけるアメリカ・西欧モデルと文化的ジレンマ—日本とマレーシアの選択」『変容するアメリカ太平洋世界』第6巻, 瀧田佳子編著。彩流社, 2005, 121-138。

“The New Japanese Educational Reforms and the Achievement ‘Crisis’ Debate.” *Educational Policy*, Vol.18, No.2, May, 2004: 364-394.

“The ‘New’ Foreigners and the Social Reconstruction of Difference: The Cultural Diversification of Japanese Education.” *Comparative Education*. Vol.40, No.1, 2004: 55-81.

「育児観の国際比較」『小児科臨床』(増刊号 6月「子どもの心のケア—温かく育むために」57巻, 2004, 101-6。

“Internationalization Strategies in Japan: The Dilemmas and Possibilities of Study Abroad Programs Using English.” *Journal of Research in International Education* Vol.4, No.1, 2005: 65-86.

「国際化と教育—『内なる国際化』の視点と日本の教育」『家庭経済研究』67号, 2005年, 40-48。

Christopher Bjork and Ryoko Tsuneyoshi, “Education Reform in Japan: Competing Visions for the Future,”

Phi Delta Kappan, 2005: 619-626.

<報告書>

“A Japanese Vision of 21st Century Abilities: The Integrated Period, Basics, and the New Reforms” 及び、「本報告書の趣旨」, *Rethinking Japanese Education*, 基礎学力研究開発センター, 2004年, 7-32ページ.

「日本, アメリカ, 中国, シンガポールにおける教育観の国際比較研究—ビデオ・インタビューによる考察」, 『基礎学力研究開発センター中間報告書』, 2004年(恒吉僚子, 秋田喜代美, B. Finkestein, C. Lewis, C. Bjork, C. Lee 他).

「ローカル依存型共生イメージを分析する—川崎市の事例から」『ニューカマーの子どもたちに対する教育支援の研究』, 2004年, 27-34(科学研究費基盤C2, 14510263, 志水宏吉)

「国際学力テストと日本型学力を考える: 国際比較の視点から」『日本の基礎学力: 現状と展望—第3回 基礎学力シンポジウム報告書』基礎学力研究開発センター(他9名), 2004年, 19-27.

西島 央(助手)

<論文等>

- ・「序章 私立中学校概観」, 「第1章 私立中学生とはどんな中学生なのか」『首都圏の私立中学生の生活・意識・行動に関する調査』研究報告書 東京大学大学院教育学研究科比較教育社会学コース編, 5-27頁(序章), 31-42頁(第1章), 2005年.
- ・「1. 将来を見据えた進路選択」『モノグラフ高校生 vol.73 高校生にとっての「働くこと」』ベネッセ未来教育センター, 4-7頁, 2005年.
- ・「2章2. 僕は僕をやってていいの? 『自分らしくない自分』と『自分らしい自分』の狭間」『モノグラフ高校生 特別号 モノグラフにみる高校生のすがた』ベネッセ未来教育センター, 15-22頁, 2005年.
- ・「子どもたちにとっての『音楽』と『音楽科』」『音楽教育 ヴァン』vol. 5, 教育芸術社, 28-33頁, 2005年.
- ・「アンケート調査からみる私立中学生の意識と行動(1)」『私学中等教育』第110号, (株)森上教育研究所, 1頁, 2005年.

<学会発表等>

- ・「戦前期小学校における音楽授業に関する文化社会学的一考察—音楽室の配置と楽器・教具類に注

目して—」日本音楽教育学会第35回大会, 於武蔵野音楽大学, 2004年11月13日.

- ・「明治中期の唱歌科普及過程に関する文化社会学的一考察」洋楽文化史研究会第31回例会 於東京大学, 2005年3月7日.
- ・「中学校部活動の変化と学校・家庭・地域—学習指導要領改訂前後の比較調査をもとに—」日本教育社会学会第57回大会 於放送大学, 2005年9月18日, (○西島央・○中澤篤史・藤田武志・矢野博之・宮本幸子による共同発表).

<講演>

- ・「クラシック音楽の消費から音楽文化の創造へ」『PTNA・東音企画研修会』2004年10月15日.
- ・「東大教育社会学教室が分析した私立中学生像」『(株)森上教育研究所 第173回セミナー』, 2005年7月8日.

大多和 直 樹(大学総合教育研究センター 助手)

<著書>

「学習成果の認定—eラーニングによる新動向を中心に」2005(関口礼子編著『情報化社会の生涯学習』学文社 pp.153-168)

<論文>

「メディアと大学生—インターネットとどう関わっていくか」2005(『IDE 現代の高等教育』No.473 pp.31-36)

<書評>

書評 小玉重夫著『シティズンシップの教育思想』2004 (『人間発達研究』第27巻 お茶の水女子大学 pp.101-103)

両角 亜希子(大学総合教育研究センター 助手)

<報告書>

両角亜希子, 阿曾沼明裕, 小林雅之「外部資金の獲得」『国立大学財務・経営センター研究報告』第9号(2005年6月)20-54頁.
阿曾沼明裕, 濱中義隆, 両角亜希子「間接経費・オーバーヘッド」『国立大学財務・経営センター研究報告』第9号(2005年6月)109-125頁.

<学会発表・その他>

「私立大学の経営構造の日本的特質とその変容に関する研究」日本高等教育学会第2回研究交流集会(2004年12月18日, 同志社大学)
「外部資金の獲得」国立大学財務・経営センターシンポジウム「法人化と国立大学の財政・財務」(2005

年3月26日, 国立大学財務・経営センター)
 「私立大学の財務構造の変容—時系列マクロ分析からのアプローチ—」日本高等教育学会第8回大会
 (2005年5月22日, 九州大学)

“Governance and Finance of Private Universities in Japan—Characteristics and Transformation of Japanese System—”, Paper Prepared for CHEPS Summer School (4–8 July 2005, Vilnius, Lithuania).

“Changes in Finances of Private Institutions in Japan” Paper Prepared for International Seminar on University Management and Higher Education Policy ‘Marketization of Higher Education – Trends, Issues and Prospects–’ (19–20 September 2005, United Nations University, Tokyo).

教育心理学コース

渡部 洋(教授)

<学会発表>

石井秀宗・渡部 洋(報告),

“A Bayesian inference for the longitudinal data augmented by repeated cross-sectional data” Bayesian Applied Multivariate Analysis 東京大学 駒場キャンパス 2005.8

市川 伸一(教授)

<著書>

『日本の算数・数学教育2004：高度情報通信社会における学校数学の新しい展開』教育出版, 2004, (日本数学教育学会編, 「データ解析の学習における数学とコンピュータの役割」を分担執筆)

『教育研究のメソッドロジー—学校参加型マインドへのいざない—』東京大学出版会, 2005 (秋田喜代美・恒吉僚子・佐藤学編, 「学習過程研究としての認知カウンセリング」「数量的研究—フィールド研究でどう生かすか—」を分担執筆)

『教育心理学の新しい形—理論とは何か?なぜ必要か?どう構築するか?』誠信書房, 2005, (鹿毛雅治編, 「地域の学習リソースとしての大学」を植木理恵と分担執筆)

『義務教育改革—その争点と地域・学校の取り組み—』教育開発研究所, 2005 (小川正人編, 「義務教育と『義務教育段階の教育』を考える—人間力につながる学力をどう育てるか—」を分担執筆)

Applied Developmental Psychology: Theory, Practice, and Research from Japan. Greenwich, USA:

Information Age Publishing, 2005 (D. W. Shwalb, J. Nakazawa, & B. J. Shwalb 編. Cognitive counseling to improve students' metacognition and cognitive skills を分担執筆)

<学術論文>

『『学校教育と心理学』特集に寄せて』, 『心理学評論』2004, Pp.267–269 (特集『学校教育と心理学』, 責任編集)

『認知カウンセリングから見た理科教育』, 『理科の教育』, 2005, 9月号, Pp.8–11.

<一般雑誌論文>

「総合で追う「なりたい自分」と「なれる自分」を広げる」『総合的学習を創る』(明治図書), 2004~2005, 10月号~3月号, 連載第7回~第12回

『『みのりある教育』に向けて—『人間力』につながる学力向上への提言—』, 『BERD』(Benesse), 2005, No.01, Pp.19–26. (インタビュー記事)

「これからの学力育成と評価のあり方を考える」, 『エデュフロント』, Sep. 2005(講演録)

南風原 朝和(教授)

<著書(分担執筆)>

「心理学分野のキーワード」松原望(編著)『統計学100のキーワード』弘文堂, 2005年4月

「統計学と心理学—個を重視する統計学の観点から」下山晴彦(編著)『心理学論の新しいかたち』誠信書房, 2005年5月

<学会発表>

「テストの作成と利用の現状」(シンポジウム『心理テストの効用をめぐって—21世紀を展望する』における話題提供)日本テスト学会第3回大会, 2005年8月

「量的研究の側から質的研究との連携を考える」(ワークショップ『質的研究と量的研究の融合』における話題提供)日本心理学会第69回大会, 2005年9月

「個人内変動と個人間変動—統計学的観点からの考察」(ワークショップ『適切な変動因は何か—心理学的研究において個人内変動に注目することの意味』における話題提供)日本社会心理学会第46回大会, 2005年9月

<その他>

「基礎統計の統合的理解」日本行動計量学会第8回春の合宿セミナーテキスト, 2005年3月

「国際学力調査PISAにおける基礎学力の概念」『『基礎学力』の再検討』東京大学基礎学力研究開発セン

ター Working Paper, Vol.16, 2005年7月

針生悦子(助教授)

<論文>

Haryu, E., Imai, M., Okada, H., Li, L., Meyer, M., Hirsh-Pasek, K., & Golinkoff, R. M. 2005 Noun bias in Chinese children: Novel noun and verb learning in Chinese, Japanese and English preschoolers. *Proceedings of the 29th Annual Boston University Conference on Language Development, vol.1*, pp272-283. Somerville, MA: Cascadilla Press.

Imai, M., Haryu, E. & Okada, H. 2005 Mapping novel nouns and verbs onto dynamic action events: Are verb meanings easier to learn than noun meanings for Japanese children? *Child Development*, 76(2), 340-355

<学会発表>

Haryu, E., Imai, M., Li, L., Okada, H., & Shigematsu, J. 2005 Novel verb learning in Chinese children: Morphological simplicity makes verb learning difficult. *Paper presented at the Biennial Meeting of the Society for Research in Child Development*.

Kajikawa, S., Sato, K., Kanechiku, K., Imai, M., & Haryu, E. 2005 Infants' discrimination of similar sounds in words: The more difficult to articulate, the more difficult to perceive? *Paper presented at the Xth International Congress for the Study of Child Language*.

<分担執筆>

針生悦子 2005 言語心理学 内田伸子(編)「心理学」東京：光生館, pp105-130.

針生悦子 2005 「語彙の獲得」(p339)「音韻意識」(p343) 中島義明・繁榊算男・箱田裕司(編)「新・心理学の基礎知識」東京：有斐閣

針生悦子・今井むつみ 2005 語彙獲得研究の新しいかたち 遠藤利彦(編)「発達心理学の新しいかたち」東京：誠信書房, pp133-160.

臨床心理学コース

亀口憲治(教授)

<著書・編著>

家族力の根拠 2004年11月 ナカニシヤ出版
家族療法の現在(現代エスプリ451号)2005年2月

至文堂

東山紘久編 臨床心理面接学 2005年3月 誠信書房

日本家族心理学会編 家族間暴力のカウンセリング (家族心理学年報23)2005年5月 金子書房

乾吉佑・氏原寛・亀口憲治・東山紘久・山中康裕編 心理療法ハンドブック 2005年9月 創元社

<訳書>

亀口憲治(監訳) リン・ホフマン著 家族療法学 2005年6月 金剛出版

<論文>

コラボレーション—学校臨床における協働 保健の科学 第46巻(10), 716-720, 2004年10月

多重焦点法による学校内コラボレーションの実践展開 東京大学大学院教育学研究科紀要 第44巻, 201-214, 2005年3月

家族療法のスーパーヴィジョン 藤原勝紀編 臨床心理スーパーヴィジョン(現代のエスプリ別冊)至文堂 2005年4月

中国における家族療法ワークショップの実践 家族療法研究 第22巻(1), 73-75, 2005年4月

Expanding opportunities for family counselors in Japan. *The Family Journal: Counseling and Therapy for Couples and Families.*, 13(3), 291-299, 2005年7月

<学会等発表>

シンポジウム「虐待の心理と支援をめぐる」(第14回心の健康会議)臨床心理士報 第16巻(1), 14-54, 2005年1月

記念講演「授業を生かした心理教育とピア・サポートの課題」(日本ピア・サポート研究会第3回総会)ピア・サポート研究 第2号, 73-79, 2005年3月

臨床心理システム論の視点 家族療法研究 第22巻(1), 22, 2005年4月

ワークショップ「家族粘土・家族描画法」日本家族心理学会第22回大会 2005年7月

FITを媒介として語られる親との関係 日本家族心理学会第22回大会発表論文集, 27-28, 2005年7月

シンポジウム「ストレス社会を生きる」日本心理臨床学会24回大会 2005年9月

シンポジウム「心理臨床の研究と理論化に向けて」日本心理臨床学会24回大会 2005年9月

<その他>

- 個人化する家族 小児歯科臨床 第10巻(1), 83-86, 2005年1月
- 親密さを求めて 小児歯科臨床 第10巻(2), 81-84, 2005年2月
- 密着する親子 小児歯科臨床 第10巻(3), 79-82, 2005年3月
- 上海, ホノルル, ロサンゼルス, バークレー, そしてスタンフォードを巡って 東京大学大学院教育学研究科心理教育相談室紀要, 第28集, 113-115, 2005年3月
- ケースコメント 飯塚恵子著「つながることに困難を抱える青年期女性との面接過程」東洋英和女学院大学心理相談室紀要 第8号 154-156, 2005年3月
- 再生する家族 小児歯科臨床, 第10巻(4), 83-86, 2005年4月
- 臨床心理学キーワード-肯定的意味づけ, リフレーミング, コラボレーション 臨床心理学 第5巻(3), 413-415, 2005年5月
- 海外文献紹介—Current psychotherapies(7th ed.) 精神療法 第31巻(4), 113-114, 2005年8月
- 家族のゆくえ 佼成カウンセリング 第41号 2005年9月
- <書評>
- 氏原寛著『ライフサイクルと臨床心理学』精神療法 第30巻(5), 107-108, 2004年10月
- 柏木恵子著『家族心理学』児童心理学の進歩2005年版, 246-250, 2005年6月
- <報告書>
- 指定大学院の指定を受けて—東京大学大学院(1種) 臨床心理士報 第16巻(2), 42-45, 2005年7月
- 下山晴彦(教授)
- <編著>
- 下山晴彦 2004 「特集 認知-行動療法の実践的活用」精神療法 pp593-663
- 下山晴彦 2005 『心理学論の新しいかたち』誠信書房 pp273
- 下山晴彦他3名 2005 カウンセラーのための基本104冊 創元社 pp267
- <講座監修・編集>
- 大塚義孝・岡堂哲雄・東山紘久・下山晴彦 監修 2003-2005 『臨床心理学全書』全13巻 誠信書房
- 下山晴彦 シリーズ企画・編集 2004-刊行中 『心理学の新しいかたち』シリーズ全12巻 誠信書

- 房
- <雑誌論文>
- 下山晴彦 「認知行動療法の現在」精神療法 30(6) pp593-597
- 下山晴彦 2005「今 なぜ, アセスメントか」臨床心理学 5(1) pp98-105 2005
- 下山晴彦 2005「何のためのアセスメントか」臨床心理学 5(2) pp254-260
- 下山晴彦 2005「何をどのようにアセスメントするのか」臨床心理学 5(3) pp388-389
- 下山晴彦 2005「臨床心理アセスメントは, 何を問題にするのか」臨床心理学 5(4) pp533-540
- 下山晴彦 「どのような枠組みに基づいてアセスメントするのか」臨床心理学 5(5) pp692-698
- <分担執筆>
- 下山晴彦 2005 「心理学論を考えるにあたって—科学であることをめぐって」pp3-26 In 下山晴彦(編)『臨床心理学の新しいかたち』誠信書房
- <訳書>
- 下山晴彦(監訳)『認知行動療法入門』金剛出版 pp241 2004
- <報告書>
- 下山晴彦 研究報告書:臨床心理学の教育訓練カリキュラムにおけるインターシップの研究(科学研究費補助金 課題番号14310053) pp188 2005
- 田中千穂子(教授)
- <著書>
- 心理平衡 中国 2005年9月 192p
(「こころのバランスが上手にとれないあなたへ」講談社の翻訳)
- <共編>
- 発達障害の心理臨床 市川奈緒子・栗原はるみとの共著編 有斐閣 2005, 9. 276p
- <監修>
- 汐見稔幸・田中千穂子監修・上田勢子訳 大月書店 2004, 10 ~2005, 2
- 10代のメンタルヘルス
7. 親の離婚 ボニー・グレイブス著
8. 喪失感 ボニー・グレイブス著
9. ストレスのコントロール ジュディス・ピーコック著
10. ADDとADHD ナンシー・M・キャンベル著
- <論文>

子育てにあせりと不安を感じる母親たち—社会の成熟という視点から 児童心理 4月号 2005, 4 vol.821 pp 1-8

後藤さんのケースを読んで 東洋英和女子大学院相談室紀要2004, vol.8. pp217-220

ひきこもり—関係性と時代の成熟という視点から—現代のエスプリ「ひきこもる若者たち」至文堂 pp65~75, 2005年

野入さんの論文を読んで 神戸女学院大学大学院心理相談相談室紀要第6号 pp39~41, 2005年, 特集「何のための事例研究か」東京大学心理教育相談室紀要28集 2005年6月 pp43~47

<その他の雑誌原稿>

ショートエッセイ「ヨン様現象が意味するもの」東京大学心理教育相談室紀要28集 2005年6月 pp116~117

<事典>

「乳幼児期のアセスメント」坂上裕子と共著 メンタルヘルス事典 同胞舎

<その他>

○その他の雑誌原稿

取材原稿:「自分を知ることがよりよい人間関係を築く一歩」8-11 理想世界2005, 4月号

講演録:「成人期の問題を考える自主グループの集まり」日本ダウン症協会会報 JDS ニュース 6回連載 2005, 1月号(No385)~6月号(No390)

中 釜 洋 子(助教授)

<翻訳>

浜崎あえか, 北島歩美, 中釜洋子, 亀口憲治の共訳 『ホフマンの家族療法学』 亀口憲治監訳 金剛出版 2005年6月

Hoffman, L. 2001 Family Therapy: An Intimate History. w. w. Norton & Co. Inc.

<分担執筆>

「思春期の精神病理と治療 中井久夫+山中康裕編」氏原・下山・東山・山中編 『カウンセラーのための基本104冊』創元社 p.104-105 2005年6月

<論文>

「親密な関係を築きそれを維持する」現代のエスプリ 450 平木典子編『アサーション・トレーニング—その現代的意味』至文堂 p.171-180 2005年1月

亀口憲治との共著「概説:家族療法の現在」現代のエスプリ 451 亀口憲治編『家族療法の現代』至文

堂 p.5-25 2005年2月

「多世代文脈的アプローチの展開」現代のエスプリ 451 亀口憲治編『家族療法の現代』至文堂 p.178-186 2005年2月

<辞書・事典>

「ジェノグラム」など5項目 乾吉佑・氏原寛・亀口憲治ほか編『心理療法ハンドブック』創元社 p.497, 522, 523, 532, 533 2005年9月

臨床心理学領域の編集委員 藤永保・仲真紀子監修 『心理学辞典』丸善 2005年2月 Colman, A. M. 2001 Dictionary of Psychology. Oxford University Press.

<書評>

「B・カーウエン, S・パーマー, P・ルデル著『認知行動療法入門』」臨床心理学 vol.5, no.3, p.433-434 2005年5月

「M・ホワイト著『セラピストの人生という物語』」家族療法研究 vol.21 no.3 p.277-278 2004年12月

<座談会など>

(平木, 沢崎, 野末との座談会)「アサーション・トレーニング—その展開と可能性」現代のエスプリ 450平木典子編『アサーション・トレーニング—その現代的意味』至文堂 p.5-29 2005年1月

(エッセイ)「ジェンダーバイアスとは, 力業で個性を奪い取るもの」精神療法 vol.31 no.2 p.51-52 2005年4月

(インタビュー記事)「認知のゆがみを正し悪循環から抜け出す」暮らしと健康 保健同人社 p.20-23 2005年2月

(インタビュー記事)「私たちが産むことをためらう理由」日経ウーマン4月号 日経ホーム出版社 P.124-125 2005年4月

(インタビュー記事)「心の親離れと経済的自立が20代, 30代のいい親子関係をつくる」日経ウーマン6月号 日経ホーム出版社 p.56-57 2005年6月

<学会発表など>

高橋・柏木・中釜ほか 日本心理学会 ワークショップ 「ジェンダーから読み解く三歳児神話・母性神話」慶應義塾大学 2005年9月

塩谷・三枝・中釜ほか 「児童福祉施設における心理臨床について・その2:施設の心理士が試み始めたこと」日本心理臨床学会 京都国際会議場 2005年9月

ワークショップ「合同面接の技を身につける」日本家族心理学会 文教大学 2005年6月

能智正博(助教授)

<著書>

『動きながら識る, 関わりながら考える—心理学における質的研究の実践』(伊藤哲司・能智正博・田中共子編, 2章「質的研究がめざすもの」, pp.21-36; 8章「質的データを読む」, pp.105-116; 9章「質的データの分析技法: 第1節 グラウンデッドセオリー法」, pp.119-125; 11章「質的研究の質」, pp.155-166; 12章「質的研究のレポート作成: 第2節3) レポートの実例(東京女子大学)」, pp.196-203; 13章「質的研究の実習プログラム: 第3節 実習プログラムの実例: 帝京大学」, pp.216-221; 14章「質的研究による卒業論文: 第5節 卒業論文の実例とコメント: 東京女子大学」, pp.239-242, ナカニシヤ出版, 2005.3.

<一般雑誌論文>

「てんかんと心理(1)」, 『Encourage』3(5), 2-3. 2004.12.
 「てんかんと心理(2)」, 『Encourage』3(6), 2-3. 2005.1.
 「質的研究と臨床心理学」, 日本心理学会『心理学ワールド』23, 22-23. 2005.4.

<学会発表等>

「失語症をもつ方のライフストーリー: どのように聞くか, どのように語るか」, オーラルヒストリー研究会, 京都大学, 2004.12.
 「モデル生成, そしてその一歩先へ—失語症者のライフストーリーの研究より」, 質的研究法ワークショップ『臨床心理の実践場面をいかに記述するか?』, 青山学院大学, 2004.12.
 「質的分析・記述の基礎過程」, 質的研究法ワークショップ『臨床心理の実践場面をいかに記述するか?』, 青山学院大学, 2004.12.
 「体験学習ワークショップ: 質的調査法」, 日本保健医療行動科学会第20回大会, 立正大学, 2005.6.
 「〈語り〉を聴き取る／〈語り〉を伝える—シーケンス分析の実践論」(桜井厚・茂呂雄二・森岡正芳・南博文・遠藤利彦と共同), 日本質的心理学会第2回大会, 東京大学, 2005.9.

学校教育開発学コース

中田基昭(教授)

<論文>

‘Das Problem der Intersubjektivität und die Fremderfahrung von Kindern mit schwerer geistiger Behinderung’, “Interdisziplinäre Phänomenologie” Vol.2. “hershg. von T. Ogawa und H. Kashiwa, 2005年4月, S.139-S.147, an der., Graduate School of Global Environmental Studies,” Kyoto University

佐藤学(教授)

<著書: 単著>

『学習の快樂——走向対話』(世界課程与教学新理論文庫)鐘啓泉訳 教育科学出版社 中華人民共和国 2004年11月 400p. (『学びの快樂—ダイアローグへ』(世織書房)の翻訳)

<著書: 共著>

佐藤学+佐藤雅彰+田中每実+山脇直司+金泰昌+矢崎勝彦『二十一世紀の日本の教育課題』(公共哲学京都フォーラム談論シリーズ NO.1 公共哲学共同研究所 2004年12月)

<著書: 共編著>

津守真・岩崎禎子編・佐藤学監修『学びとケアで育つ—愛育養護学校の子ども・教師・親』小学館 2005年3月
 秋田喜代美・恒吉僚子・佐藤学編『教育研究のメソドロロジー—学校参加型マインドへのいざない』東京大学出版会 2005年3月

<著書: 分担執筆>

「市民的教養の形成へ—大学教育の21世紀」(神戸女学院大学叢書(2)『教養教育は進化する』冬弓社 2005年1月 pp.16-41.)
 「学びとケアの共同体へ—教育の風景と原風景」(津守真・岩崎禎子編・佐藤学監修『学びとケアで育つ—愛育養護学校の子ども・教師・親』小学館 2005年2月 pp.18-34.)
 「教室のフィールドワークと学校のアクションリサーチのすすめ」(秋田喜代美・恒吉僚子・佐藤学編『教育研究のメソドロロジー: 学校参加型マインドへのいざない』東京大学出版会 2005年3月 pp.3-13.)
 「教育実践の歴史的研究」(秋田喜代美・恒吉僚子・佐藤学編『教育研究のメソドロロジー: 学校参加型マインドへのいざない』東京大学出版会 2005年3月 pp.239-247.)

「国民国家と教育—近代史を脱構築する」(栗原彬との対談 教育の臨界編集委員会『教育の臨界』情況出版 2005年4月 pp.13-37.)

<学術論文>

「学力問題の危機の位相—論題と展望」(日本教育方法学会編『教育方法33 確かな学力と指導法の探究』(図書文化 2004年10月 pp.26-35.)

「教育系専門職大学院の課題と可能性」(『IDE 現代の高等教育』2005年1月号 民主教育協会 pp.63-67.)

「『改革』によって拡大する危機」(『論座』朝日新聞社 2005年2月 pp.30-37.)

「アート教育の新しい構想を求めて——協同社会の公共空間へ」(平成14-16年度科学研究費補助金・基盤研究(B)(1)研究成果報告書「『美的なもの』の教育的影響に関する理論的・文化比較的研究」(研究代表者：今井康雄) 2005年3月 pp.18-24.)

Japan's School Crisis: A Trail of Misguided Reforms, *Japan Echo*, Vol.32, No.2, April 2005, pp.30-34.

「教職専門職大学院のポリテクス」(『現代思想』2005年4月 青土社 pp.98-111.)

「劣化する学校教育をどう改革するか」(『世界』岩波書店 2005年5月 pp.110-120.)

「教師の専門職性の高度化へ—改革の論題と政策」(『IDE 現代の高等教育』2005年7-8月号 民主教育協会 pp.5-12.)

「転換期的学校改革—学習共同体的構想」(沈曉敏訳 中華人民共和国教育部主管『全球教育展望』34巻5集 May 2005, pp.3-8.)

「フィンランドの教育の優秀性とその背景—PISA 調査の結果が示唆するもの」(教育科学研究会『教育』国土社 2005年6月号 pp.25-32.)

<事典>

『戦後史事典(新版)』「教育基本法改正問題」「国旗・国歌の強制」「学力低下論争」「総合学習」(三省堂 2005年)

<書評・その他>

「学校の挑戦・「学びの共同体」づくり(5)—別府市青山小学校(1)」(『総合教育技術』小学館 2004年10月 pp.96-100.)

「書評『最後の言葉』(重松清・渡辺考)——『届かなかった言葉』と『埋もれた言葉』が編み出す戦争の真実」(『週間ポスト』小学館 2004年10月1日号 p.162.)

「教師が教師らしく生きるために」(全国国立学校教

頭会編『学校運営』学校運営研究会 2004年10月号 pp.6-11.)

「教室から大義も目的も失われる」(『別冊世界・もしも憲法9条が変えられてしまったら』岩波書店 2004年10月 pp.68-71.)

「学校の挑戦・「学びの共同体」づくり(6)低学年の授業づくりの原則—別府市青山小学校(2)」(『総合教育技術』小学館 2004年11月 pp.96-100.)

「学校の挑戦・「学びの共同体」づくり(7)小さな島の学びの共同体—尾道市立百島幼稚園・小中学校」(『総合教育技術』小学館 2004年12月 pp.96-100.)

「学校の挑戦・「学びの共同体」づくり(8)授業づくりから学校改革へ—熱海市立多賀中学校」(『総合教育技術』小学館 2005年1月 pp.101-105.)

「劣化する教育の克服へ」(NIRA企画広報課編『NIRA政策研究』2005年1月 NIRA 総合研究開発機構 pp.58.)

「学校の挑戦・「学びの共同体」づくり(9)学び合う学びの創造—大阪府東大阪市小阪小学校」(『総合教育技術』小学館 2005年2月 pp.96-100.)

「学校の挑戦・「学びの共同体」づくり(10)教師たちが学び合う学校の創造—兵庫県高砂市北浜小学校」(『総合教育技術』小学館 2005年3月 pp.96-100.)

「特別企画・『なぜ、勉強しなければいけないのか』子どもに聞かれたとき、私はこう答える」(『総合教育技術』小学館 2005年4月 pp.66)

「同僚性を築く校内研究=内側からの学校改革」(『教育研究 第六十巻 第四号』初等教育研究会 2005年4月 pp.14-17.)

「協同する学び(1)~(12)」(『日本教育新聞』2005年4月-10月)

「同僚性を築く校内研究=内側からの学校改革」(『教育研究』筑波大学附属小学校・初等教育研究会 2005年4月 pp.14-17.)

「学校の挑戦・「学びの共同体」づくり(11)安心して学び合う教室づくりから背伸びとジャンプのある学びへ—東京都練馬区豊玉南小学校—」(『総合教育技術』小学館 2005年5月 pp.114-118.)

「学校の挑戦・「学びの共同体」づくり(12)町ぐるみの「学びの共同体」づくり—長野県北佐久郡望月町の取り組み—」(『総合教育技術』小学館 2005年5月 pp.98-102.)

「学力は低下したか・学びの量より質を」(『東京新聞』『中日新聞』2005年5月9日)

「学校の挑戦・「学びの共同体」づくり(13)螺旋階段

- を上るように改革を持続する—8年目を迎えた神奈川県茅ヶ崎市・浜之郷小学校—」(『総合教育技術』小学館 2005年6月 pp.106-110.)
- 「学校の挑戦・「学びの共同体」づくり(14)若い教師たちが育ち合う学校—神奈川県茅ヶ崎市・浜之郷小学校の軌跡—」(『総合教育技術』小学館 2005年8月 pp.82-86.)
- 「学校の挑戦「学びの共同体」づくり(15)協同する学びの導入—高槻市第八中学校」(『総合教育技術』小学館 2005年9月 pp.82-86.)
- <講演・シンポジウム>
- 「子どもたちの想像力を育む—子どもとアートの関係を模索する」(日本美術教育学会第53回学術研究大会京都大会基調講演 立命館大学以学館2号ホール 2004年10月30日 日本美術教育学会学会誌編集委員会『美術教育 NO.288』に収録。2005年3月 pp.66-78.)
- 「転換期的学校改革—学習共同体の構想(転換期の学校改革—学びの共同体の構想)」(招待講演 通訳: 沈曉敏 華東師範大学 上海 中華人民共和国 2004年11月11日)
- 「グローバル化する日本の学校改革—東アジア型教育の岐路」(招待講演 通訳: 田輝 中央教育科学研究所 北京 中華人民共和国 2004年11月15日)
- 「活動システムとしての学びの共同体—学校改革の事例研究」(招待講演 通訳: 申智媛 釜山大学 釜山 韓国 2004年11月23日)
- 「学びの公共性を再構築する—義務教育の再検討」(公開シンポジウム「学びの場の再構築—「義務教育」のゆくえ」九州教育学会第56回大会 九州大学 2004年11月27日)
- 「授業の事例研究による教職の専門性の開発」(東京学芸大学教員養成カリキュラム開発センター・シンポジウム「授業研究をとおした教師の学びとその支援」 東京学芸大学 2004年12月4日 <東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター主催「第5回シンポジウム記録集」に収録。pp.21-29.>)
- Defence of School Reform against Manufactured Crisis: Beyond Numbers Game of Achievement Test Scores, The Second International Conference of the Center for Research of Core Academic Competences, Graduate School of Education, The University of Tokyo, December 20, 2004.
- 「専門家教育としての教師教育=教職専門職大学院は何を教えるべきか」(基調講演シンポジウム「教師教育の将来像」福井大学 2005年3月5日)
- 「教職の専門職化と教育系大学院の将来像」(日本教育学会主催シンポジウム「教職プロフェッショナル・スクールの可能性と危険性」 東京大学 2005年3月27日)
- 「モノローグの歴史からダイアローグの歴史へ」(韓国学中央研究院・東京大学「市民性の教育」プロジェクト共催・国際シンポジウム「日韓歴史教科書の現在と未来」東京大学 2005年4月6日)
- 「『経済大国』と崩壊する社会」(「岩波書店主催『世界』創刊60周年記念シンポジウム「戦後60年・私たちはどう生きてきたか?そしてこれからは?」 内橋克人(基調講演)・間宮陽介・佐藤学・島本慈子・的場昭弘 浜離宮朝日ホール 2005年6月5日)
- 「カリキュラム研究における子どもの位相」(日本カリキュラム学会第16回大会・課題研究「カリキュラム研究における子どもの位置」東京学芸大学 2005年6月17日)
- 「学びの共同体づくりのヴィジョンと哲学」(招待講演 釜山大学教育学部教育研究所主催・釜山市教育委員会共催 学校長セミナー 釜山, 韓国 2005年7月6日)
- 「教師教育の基礎としての教育学研究—改革の政策と実践への示唆」(招待講演 中華人民共和国教育部主催 全国研究生暑期学校(教育学)「學員指南」National Graduate Summer School(Education) 華東師範大学 上海 中国 2005年7月8日)
- How respond to the creeping de-professionalization of teachers. International Symposium 2005: Core Academic Competences: Policy Issues and Educational Reform, The 4th International Symposium of the Center for Research of Core Academic Competences, Graduate School of Education, The University of Tokyo, United Nations University, Tokyo Japan, July 24, 2005.
- 「21世紀を生きる市民を育てる」(講演 日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究事業シンポジウム 「長寿化・少子化社会における知の継承と創造」 ホテル仙台プラザ 2005年9月23日)
- 佐々木 正 人(教授)
- <単編著>
- 佐々木正人 『ダーウィンの方法—運動からアフォー

- ダンスへ』 315頁
 佐々木正人・三嶋博之編訳『生態心理学の構想』東京
 大学出版会 序章「なぜ世界を直接知覚できるの
 か」pp.1-19
- <共著等>
 内山靖編『環境と理学療法』3章「環境と行為」pp.43-
 57 医歯薬出版
 阿部仁史他編『プロジェクト・ブック』彰国社 コラ
 ム担当
 岩波書店編集部編『<心の科学>を読む』「地面や空
 気から「心」について考えることもできる—早分か
 りアフォーダンス」 pp.115-126
- <学会口頭発表・シンポ等>
 Minoru Fukuda & Msato Sasaki(2005) The signifi-
 cance of microsliaps and postural changes in the
 learning process of Guitar fingering. 13th Interna-
 tional Conference on Perception and Action Pro-
 ceedings pp.89.
 Hiroe Matsura & Masato Sasaki(2005) Development
 of the nesting structure of posture and reaching in
 infancy. 13th International Conference on Percep-
 tion and Action Proceedings pp.89.
 日本現象学会シンポ(東洋大学)2004年11月
 千葉県精神科医療センター開設20周年記念学術集会
 シンポ(千葉県障害者職業総合センター)2005年6
 月
 質的心理学会シンポ「レイアウトと姿勢」(東大)2005
 年9月
- <雑誌論文・インタビュー等>
 佐々木正人 田中小実昌『自動巻時計の一日』解説
 河出文庫 pp.221-233
 佐々木正人 思想の言葉—情報は光の中にある 思
 想 2005年2月号 pp.1-3
 「水泳 鈴木大地」月間バーサス11月号 pp.154-156
 「F1 鈴木亜久里」月間バーサス12月号 pp.152-
 155
 「スケート 堀井学」月間バーサス1月号 pp.148
 -151
 「シンクロナイズドスイミング 武田美保①」月間バー
 サス2月号 pp.140-143
 「武田美保②」月間バーサス3月号 pp.150-153
 「100m 朝原宣治①」月間バーサス4月号 pp.142-
 144
 「朝原宣治②」月間バーサス5月号 pp.146-148
 「相撲 友綱親方」月間バーサス6月号 pp.160
 -162
 「体操 鹿島丈博」月間バーサス7月号 pp.163
 -165
 「卓球 松下浩二」月間バーサス8月号 pp.165
 -167
 「ジャンプ 船木和喜」月間バーサス9月号 pp.
 163-165
 佐々木正人 「意識の中心をプロダクト化する」 広
 告批評 293号 pp.86-89
- 金 森 修(教授)
- <論文>
 “Cultural Attendance on Homo Geneticus” Journal
 of International Biotechnology Law, vol.2, no.1,
 2005, pp.34-40.
 「設計の自己反射・離陸する身体」『現代思想』vol.33,
 no.8, 2005年7月, pp.99-113.
 「生命倫理学——ヤヌスの肖像」『思想』no.977, 2005
 年9月, pp.170-186.
- <参考論文・エッセイ他>
 「萌えだし、つなぐ壇」『高橋禎彦——花のような』,
 FORUM ART SHOP 展覧会カタログ, 2004年10
 月22日, pp.2-3.
 「科学は他人事か」『朝日新聞』2004年10月24日, 時流
 自論 英語訳(High-tech science isn't just for the
 experts)が以下に転載: International Herald Trib-
 une, Dec.16, 2004, The Asahi Shinbun, English
 Edition, No.16328.
 「研究室散歩: 正解のない現代医療」『東京大学新聞』
 第2275号, 2004年10月26日
 “Beyond Therapy and Liberal New Eugenics” Darryl
 Macer ed., Challenges for Bioethics from Asia,
 Eubios Ethics Institute, 2004, pp.324-327.
 「治療を超えた医療は許されるか」『聖教新聞』第
 15012号, 2004年11月18日
 「頑張り、教養人」『朝日新聞』2004年12月5日, 時流
 自論 英語訳(Wanted: generalists to map out a 'big
 picture')が以下に転載: International Herald Trib-
 une, 29-30, Jan., 2005, The Asahi Shinbun, English
 Edition, No.16366.
 “Philosophico-cultural Attendance on Homo Geneticus”
 Proceeding of the 5th East Asian STS Conference,
 Hoam Faculty House, Seoul National University,
 December 2004.
 「ひとりぼっちのユートピア」『朝日新聞』2005年1月

- 16日, 時流自論
 「この瞬間を歴史に刻む」『朝日新聞』2005年2月20日, 時流自論
 「科学哲学①PVS患者の生と死」, 「科学哲学②クローン研究をめぐる諸問題」, 「科学哲学③治療を超えて」『科学における社会リテラシー2』総合研究大学院大学2005年2月28日, pp.27-49, pp.51-72, pp.73-90.
 「リベラル新優生学の設計的生命論」高等研報告書『臨床哲学の可能性』国際高等研究所, 2005年3月31日, pp.103-121.
 「意味と価値を含めた科学研究を」『MOKU』2005年4月号, pp.56-63.
 「仮想の遺伝学」小倉孝誠・宮下志朗編『ゾラの可能性』藤原書店, 2005年6月30日, pp.105-131.
 「サイエンス・ウォーズ: 現状からの総括」, 「総合討論」『科学・社会・人間』No.93, 2005年3号, 2005年7月25日, pp.4-7, pp.20-29.
 「基礎学力——科学論の立場から」, 「質疑応答(1)」, 「質疑応答(2)」『「基礎学力」の再検討』, 文部科学省21世紀COEプログラム, Working Paper, vol.16, July 2005, pp.27-37, pp.38-43, pp.51-59.
 「対談: いのち, ゴーエーとピオスの狭間で」(小泉義之との対談)『談』no.74, 2005年8月31日, pp.27-56.
 <書評>
 「科学哲学と社会的問題との接点を探る」『日経サイエンス』2004年10月号, p.134.
 「パラケルススとその時代」『週刊読書人』第2566号, 2004年12月10日
 「2004年下半年の3冊」『図書新聞』第2707号, 2004年12月25日
 「2004年読書アンケート」『みすず』第524号, 2005年2月1日, pp.100-101.
 「生物学的な『死への悟り』」『図書新聞』第2714号, 2005年2月19日
 「科学革命の裏方に現代の光」『日本経済新聞』2005年4月17日
 「2005年上半年3冊」『週刊読書人』第2597号, 2005年7月29日
 「集団のゆっくりとした営為の中に創造的基盤を根付かせる」『週刊読書人』第2604号, 2005年9月16日
 「天才の生涯, 印象深い逸話で」『日本経済新聞』2005年9月18日

「抗うつ剤に潜む問題」『週刊読書人』第2606号, 2005年9月30日

秋田 喜代美(教授)

<編著書>

『教育研究のメソドロジー』(恒吉僚子・佐藤学との共編著)東京大学出版会 pp.276 2005.3

『読書コミュニティのデザイン第1巻 本を通して世界と出会う: 中高生からの読書コミュニティづくり』(庄司一幸との共編著)北大路書房 pp.244 2005.8

<著書分担執筆>

「学校・学級文化の生成と学習—学校機能の分析」鹿毛雅治(編)『教育心理学の新しいかたち』誠信書房 pp.111-131. 2005.2

「子どもの学力が育つ授業像」高浦勝義(編)『学力の総合的研究』黎明書房 pp.244-255. 2005.2

「表記法の発達」(pp.83-99)「学習のデザイナーとしての教え手の役割」(pp.178-190)波多野誼余夫・稲垣佳世子(編)『発達と教育の心理学的基盤』放送大学出版会 2005.3

‘Developmental Processes of Literacy in Japan: Kana Reading in Early Childhood Education.’ In Shwalb, D. W., Nakazawa, J. and Shwalb, B., (Eds.) *Applied Developmental Psychology: Theory, Practice and Research from Japan*. Greenwich: Information Age Publishing. pp.137-156. 2005.3

「情報公開への倫理: まっとうな配慮と同意」日本性格心理学会(編)『事例に学ぶ心理学者のための研究倫理』ナカニシヤ出版 pp.129-132. 2005.9

<学術論文>

「授業への心理学的アプローチ—文化的側面に焦点をあてて—」『心理学評論』47(3), 318-331. 2005.1.

「保育者のもつ“良い保育者”イメージに関するビジュアルエスノグラフィー」『質的心理学研究』4, 152-164.(野口隆子・小田豊・芦田宏・門田理世・鈴木正敏との共著) 2005.3.

<一般論文>

「教育課程に生かす評価」『解説 三実践事例を通して』『幼稚園じほう』32(10), 5-11, 24-26. 2005.12

「学びや発達をつなぐ幼小の連携」『初等教育資料』791, 12-15. 2005.2

「発達から学びを見直す—「発達」と「学び」の関係性」『教育研究』, 1237, 18-21. 2005.2

- 「ごっこ遊びを考える」『幼児の教育』104(5), 4-7. 2005.4
- 「学びあう保育者コミュニティのための四要素」『私幼時報』253, 1. 2005.6
- 「遊びと学びを深める保育環境としての地域：イタリア レッジョ・エミリア市」『幼児と保育』51(5), 70-71. 2005.7
- 「遊びと学びを深める保育室：イタリア レッジョ・エミリア市」『幼児と保育』51(6), 70-71. 2005.8
- <報告書>
- 報告書「幼児教育における教師の保育観の日米比較文化研究」(平成16-18年度科学研究費補助金基盤研究(B)(1)16402042)代表 小田豊 中間報告書
- <連載>
- 「遊びの中での学びの過程に沿った援助」『週刊教育プロ』34(42), 31. 2004.11
- 「教師の願いと子どもの思い」『週刊教育プロ』34(46), 27. 2004.12
- 「『三項・三者関係』から始まる教育の場」『週刊教育プロ』35(4), 27. 2005.1
- 「遊びこむという状態」『週刊教育プロ』35(8), 29. 2005.3
- 「発達の質を評価できる鑑識眼」『週刊教育プロ』35(29), 31. 2005.3
- 「月刊誌活用のデザイン」『週刊教育プロ』35(16), 35. 2005.4
- 「ドイツのフレキシブル・スクールスタートを考える」『週刊教育プロ』35(20), 33. 2005.5
- 「遊びの展開に応じた援助：共振の援助と学びの援助」『週刊教育プロ』35(24), 29. 2005.6
- 「遊ぶ力を培う」『週刊教育プロ』35(28), 31. 2005.7
- 「5歳児後期への見通し」『週刊教育プロ』35(32), 25. 2005.8
- 「幼児教育から小学校教育への「移行」を国際的に問う」『週刊教育プロ』35(36), 27. 2005.9
- 「保幼小連携の今1：子どもを生かす 地域を生かす」『Nocco』2(7), 14-16. 2005.9
- <事典項目>
- 日本教育方法学会(編)『現代教育方法学事典』(「アクションリサーチ」P48, 「発達段階と教育」P69, 「知的興味・好奇心」P82, 「記憶」P83の4項目を執筆)図書文化 2004.10
- <学会発表>
- 「授業研究に対する教師の認識：アクションリサーチの効果と授業研究の満足度規定因に注目して」(恒吉僚子・村瀬公胤・杉澤武俊との共同).日本教育心理学会第46回総会発表論文集, 55. 2004.10
- 「学習環境としての授業談話(1)記憶再生シートを用いての検討」「学習環境としての授業談話(2)談話構造の差異と学力差」(市川洋子・村瀬公胤との共同)日本教育心理学会第46回総会発表論文集, 204-205. 2004.10
- 「幼稚園の職員会議におけるメンタリング・メンタリングの機能及び文脈に関する検討」(野口隆子・安見克夫・兵頭恵子・無藤隆との共同)日本教育心理学会第46回総会発表論文集, 20. 2004.10
- 「共同的アクションリサーチとしての Design-based research へー学校支援研究の道を探る」シンポジウム「授業介入研究の新たな可能性」話題提供者 日本教育心理学会第46回総会発表論文集, S38-39. 2004.10
- 「教師の同僚性形成と校外のサポートシステム」シンポジウム指定討論者 日本教育心理学会第46回総会発表論文集, S46-47. 2004.10
- 「インスクリプションシステムからみる園文化—2つの園のシステムからの考察」日本乳幼児教育学会第14回大会発表論文集, 76-77. 2004.11
- 「『良い保育者』イメージに関するビジュアルエスノグラフィー(1)保育者の保育経験による比較とビデオをめぐるカンファレンスの分析, (2)日米の幼児教育専攻学生の比較」日本乳幼児教育学会第14回大会発表論文集, 76-77, 103-105. (野口隆子, 芦田宏, 鈴木正敏, 門田理世, 小田豊との共同) 2004.11
- 「『文化』的活動への参加と抵抗としての発達」シンポジウム「乳幼児の発達と文化」話題提供者 日本乳幼児教育学会第14回大会発表論文集, 16-17. 2004.11
- シンポジウム「ドイツ幼児教育総合施設における学び—日本との比較から」指定討論者 日本乳幼児教育学会第14回大会発表論文集, 16-17. 2004.11
- 秋田喜代美・村瀬公胤「授業研究会談話の分析—助言者の機能に注目して」日本発達心理学会第16回大会発表論文集, 634. 2005.3
- 市川洋子・秋田喜代美・村瀬公胤「授業談話における生徒の言動の既定要因の検討—教師の評価が十全に機能しない場面を手がかりに」日本発達心理学会第16回大会発表論文集, 633. 2005.3
- ラウンドテーブル「保育教材としてのライトテーブルの可能性と展望：教育・生理・統計・工学そし

- て現場からの「モノづくり」への挑戦」指定討論者
日本発達心理学会第16回大会発表論文集, 229.
2005.3
- ラウンドテーブル「対話の中で「自分の読み」を作る—
＜OWNプラン＞による国語の授業実践」指定討
論者 日本発達心理学会第16回大会発表論文集,
259. 2005.3
- シンポジウム「映像が語る保育」指定討論者 日本保
育学会第58回大会発表論文集, S50-51. 2005.5
- 「多声的エスノグラフィー法から読み解く保育者の
暗黙的实践知(1)保育実践の類型の違いに注目し
て, (2)幼小の連携を軸として」(門田理世, 鈴木
正敏, 芦田宏, 小田豊との共同) 日本保育学会
第58回大会発表論文集, 406-408. 2005.5
- ‘Teachers’ Roles and Paths of Children’s Development
in Germany and Japan’. Akita, K., Fried, L.,
König, A., Noguchi, T., & Ashida, H. *European
Association of Early Childhood Education, 15th
Conference*. Dublin: Ireland. 2005.9
- 「小中学生の学習行動を支える要因(1)宿題と学校・
自宅での学習行動, (2)授業参加意識の高い学校
の特徴, (3)授業参加度におけるジェンダー差と
学習環境」(市川洋子・藤田慶子・恒吉僚子・村瀬
公胤との共同) 日本心理学会第69回大会発表論文
集, 1263-1265. 2005.9
- 「学習意欲の低さを問直す: 授業の再構築に向け
て」準備委員会企画シンポジウム, 指定討論者
日本心理学会第69回大会発表論文集, S8. 2005.9
- 「教室談話における教師の評価応答スタイル(1)学級
による談話構造の相違の検討, (2)修正場面での
評価応答の分類と教師間での相違」日本教育心理
学会第47回総会発表論文集, 559-560. 2005.9
- 「子どもの内面を耕すことばの教育: 教室談話の構
造」準備委員会企画シンポジウム 指定討論者
日本教育心理学会第47回総会発表論文集, S2-S3.
2005.9
- 「教育実践研究法としてのアクションリサーチ: 成
果をあげるための評価法とは?」指定討論者 日
本教育心理学会第47回総会発表論文集, S32-33.
2005.9
- 「聴講の科学: 聴くことからの学び」話題提供者 日
本教育心理学会第47回総会発表論文集, S46-47.
2005.9
- 「素朴発達モデルに依拠した「話し合い活動」の活性
化」指定討論者 日本教育心理学会第47回総会発

表論文集, S52-53. 2005.9

＜シンポジウム記録＞

「これからの科学教育の在り方—幼・小・中 12年
間でできること」(細谷治夫・秋田喜代美・山崎勝
之)『こどもと授業』, 54, 6-9. 2005.3

＜書評＞

「探究し楽しむ理科への道標 小宮山博仁 脳をき
たえる大人のための小学校の理科」『教職研修』395,
150. 2005.6

岡田 猛(助教授)

＜論文＞

- ・Yokochi, S., & Okada, T. (2005) Creative cognitive process of art making: A field study of a traditional Chinese ink painter. *Creativity Research Journal*, 17, 241-255.
- ・岡田猛・難波久美子(2005)人間観察のための基礎演習: 広い視野と深い思考の獲得に向けて 名古屋高等教育研究, 5, 21-33.
- ・清河幸子・植田一博・岡田猛(2004)科学的推論プロセスにおける他者情報利用の効果 認知科学, 11, 228-238.
- ・石橋健太郎・岡田猛(2004)創造のための「芸術作品の知覚」経験: 模倣に焦点をあてて 認知科学, 11, 51-59.
- ・岡田猛・横地早和子・石橋健太郎(2004)芸術創作プロセスの理解に向けて: 認知心理学の視点 人工知能学会誌, 19, 214-221.

＜分担執筆＞

- ・岡田猛(2005)心理学が創造的であるために: 創造的領域における熟達者の育成 下山晴彦(編)心理学論の新しいかたち 心理学の新しいかたちシリーズ第1巻 235-262 誠信書房
- ・岡田猛(2004)芸術創作のプロセスを探る: 創造性の心理学入門「人間をつくってください」編集委員会(編)人間をつくってください 85-109 人間社

＜学会発表＞

- ・横地早和子・岡田猛(2005)芸術創作活動における作家のテーマ確立過程 日本認知科学会第22回大会
- ・横地早和子・岡田猛(2005)アーティストのオリジナリティの形成過程 日本発達心理学会第16回大会
- ・山内保典・岡田猛(2004)BBS(電子掲示板)における学術的議論のプロセスの検討—学際的科学・市

民参加型科学の観点から— 科学技術社会論学会
第3回年次研究大会

<講演等>

- ・名古屋大学高等研究院スーパーレクチャー 2005, 9, 8
- ・名古屋大学高等研究院セミナー 2005, 2, 22
- ・名古屋大学博物館企画展「家族の肖像」ギャラリートーク 2005, 1, 29
- ・名古屋市民芸術祭ギャラリートーク 2004, 10, 9

生涯教育計画コース

佐藤一子(教授)

<論文>

- ・アクション・リサーチと教育研究(佐藤一子他)東京大学大学院教育学研究科紀要(2005.3)pp.321-347
- ・Expansion of Non-Formal Education in Sweden and International Aids, in Study Group of International Cooperation in Non-Formal Education, *Development Cooperation and Academism in Non-Formal Education; Sweden and Germany as case studies. Report of ACCU International Exchange Programme under UNESCO/Japan Funds in Trust for Promotion of International Cooperation and Mutual Understanding*, March 2005, pp.20-33.
- ・社会教育研究とアクション・リサーチ『日本社会教育学会紀要』No.41 (2005.6)pp.41-50

<報告書>

- ・『子どもNPOと行政の協働に関する調査報告書』(日本子どもNPOセンター・医療福祉機構助成「子どものNPOの行政の協働に関する調査委員会」委員長・佐藤一子)(2005.2)176p.
- ・『NPOの人材養成と地域社会における活用システムに関する研究』(科学研究費補助金基盤研究C(1)研究代表者・佐藤一子)(2005.3)130p.
- ・『地域づくり学習と行政との協働—飯田市調査報告書』(社会教育調査演習Ⅱ 佐藤一子編)(2005.3)

<その他>

- ・「教育・学校」(鈴木眞理と共)『現代用語の基礎知識』(2005)自由国民社 pp.906-915
- ・地域づくりと官民パートナーシップ—NPOの現状と課題『開発こうほう』497号 北海道開発公社(2004.12) pp.30-34.
- ・インタビュー「草の根の民主主義を育むために—社会教育の分野から」『さいたまの教育と文化』

No.35春号(2005.4)さいたま教育文化研究所

- ・子育てシンポジウム「子どもたちに安全・安心な地域の居場所を」(コーディネーター 佐藤一子, パネラー 清水範子, 野中賢治, 福田雅章)『日本の学童保育』(2005.5)全国学童保育連絡協議会 pp.72-77

<口頭報告>

- ・成人の学習と生涯学習の組織化(講座第Ⅲ巻をめぐって)(日本社会教育学会50周年記念講座シンポジウム(鈴木敏正・姉崎洋一と共))(日本社会教育学会六月集会(2005.6))
- ・子どもNPOの現状と課題(佐藤一子と共同発表)(日本社会教育学会第52回大会自由研究発表)(2005.9)

教育行政学コース

小川正人(教授)

<著書・編著, 分担執筆>

- ・『義務教育改革—その争点と地域・学校の取り組み—』(編著/教育開発研究所 2005年9月)全227頁
- ・(翻訳)レオナード・ショッパ/『日本の教育政策過程—1970~80年代教育改革の政治システム—』(三省堂 2005年9月)全220頁
- ・『解説 教育六法』平成17年度版(編修/三省堂 2005年2月)全1164頁

<学会誌, 紀要, 報告書等>

- ・「三位一体改革と義務教育財政制度の改革構想」(日本教育行政学会年報第31号『義務教育学校「存立」の行政原理を問う』2005年9月)20頁~34頁
- ・「分権改革下における教育委員会制度の改革課題」(日本自治学会編『2004年度 活動報告集—シンポジウム・研究会—』2005年5月)117頁~124頁
- ・『戦後日本教育行財政制度の構造・特質と教育政策過程に関する実証的研究』(平成14年度~平成16年度科学研究費補助金研究成果報告書 研究代表者 小川正人)2005年3月 全191頁

<雑誌論文, その他>

- ・「義務教育改革の基本課題—義務教育費国庫負担金の存廃論議を考える—」(『教育と医学』慶應大学出版会 2005年9月)
- ・「国による義務教育保障機能の明確化」(『教職研修』教育開発研究所 2005年1月号)72頁~75頁
- ・「少人数学級編制の現状と課題」(『教職研修』教育開発研究所 2005年8月号)34頁~37頁

- ・「地方交付税制度温存の三位一体改革論議は疑問」(『地域政策』第16号 政策開発研修センター 2005年7月)46頁～49頁
- ・「学校評議員制度と学校運営協議会—評価と対応をめぐって—」(『教育展望』第51巻第5号 教育調査研究所 2005年6月)38頁～43頁
- ・解説「中教審義務教育特別部会の『審議経過報告』(その2)—地方側は具体的ビジョン提案を」(『日本教育新聞』2005年8月1日号)
- ・解説「文科省『教職員配置協力者会議』中間報告—少人数教育追跡調査の体制整備を」(『日本教育新聞』2005年9月12日号)
- ・「アメリカ教育委員会制度の実情と改革動向(上)」(『悠』第21巻第10号 2004年10月号 ぎょうせい)
- ・「アメリカ教育委員会制度の実情と改革動向(中)」(『悠』第21巻第11号 2004年11月号 ぎょうせい)
- ・「アメリカ教育委員会制度の実情と改革動向(下)」(『悠』第21巻第12号 2004年12月号 ぎょうせい)
- ・「中教審・地方教育行政部会『中間報告』を読む(上)」(『悠』第22巻第1号 2005年1月号 ぎょうせい)
- ・「中教審・地方教育行政部会『中間報告』を読む(中)」(『悠』第22巻第2号 2005年2月号 ぎょうせい)
- ・「中教審・地方教育行政部会『中間報告』を読む(下)」(『悠』第22巻第3号 2005年3月号 ぎょうせい)
- ・「中教審・義務教育特別部会審議(1)」(『悠』第22巻第4号 2005年4月号 ぎょうせい)
- ・「中教審・義務教育特別部会審議(2)」(『悠』第22巻第5号 2005年5月号 ぎょうせい)
- ・「中教審・義務教育特別部会審議(3)」(『悠』第22巻第6号 2005年6月号 ぎょうせい)
- ・「中教審・義務教育特別部会審議(4)」(『悠』第22巻第7号 2005年7月号 ぎょうせい)
- ・「中教審・義務教育特別部会審議(5)」(『悠』第22巻第8号 2005年8月号 ぎょうせい)
- ・「中教審・義務教育特別部会審議(6)」(『悠』第22巻第9号 2005年9月号 ぎょうせい)
- ・講演「教育改革の動向と鶴ヶ島市における学校づくり」(鶴ヶ島市教育委員会『つるがしまの教育』114号 2004年11月15日号)2頁～7頁
- ・座談会「義務教育費国庫負担金制度のゆくえと義務教育改革」(『教職研修'05情報版』教育開発研究所 2005年2月)20頁～44頁
- ・インタビュー「義務教育費の国庫負担—削減により、地域間格差が生じ10年、20年先の影響を懸念—」(『Guideline』河合塾・全国進学情報センター

2004年11月号)34頁～35頁

- ・インタビュー「教育における『地方分権』の課題」(『教員養成セミナー』第27巻第8号 時事通信社 2005年3月)18頁～20頁

根本 彰(教授)

<著書>

『図書館情報学の地平—50のキーワード』三浦逸雄監修 根本彰ほか編 日本図書館協会 2005年3月 353p.

<分担執筆>

『占領期における教育改革と学校図書館職員問題』『戦後教育文化政策における図書館政策の位置づけに関する歴史的研究』平成14年度・15年度科学研究費補助金研究成果報告書 東京大学大学院教育学研究科図書館情報学研究室 2005年3月 p. 1-21

『マルチメディアアーカイビング』『コレクション』『図書館情報学文献案内』『図書館情報学の地平—50のキーワード』三浦逸雄監修 根本彰ほか編 日本図書館協会 2005年3月

<論文>

『図書館情報学の理論的基盤』Library and Information Science No.50, 2003. p.5.

『日本の図書館員養成とLIPERの課題』『図書館雑誌』vol.98, no.12, 2004年12月 p.895-897.

『公立図書館の公共性を問う』『都市問題研究』2005年9月, p.52-60.

<報告書>

『戦後教育文化政策における図書館政策の位置づけに関する歴史的研究』平成14年度・15年度科学研究費補助金研究成果報告書 東京大学大学院教育学研究科図書館情報学研究室 2005年3月 127p.

『情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究(LIPER)学校図書館班中間報告—「学校内情報メディア専門家」の可能性』情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究学校図書館班 2005年9月 75p

<学会発表>

Makiko MIWA, Shuichi UEDA, Akira NEMOTO, Mitsuhiro ODA, Haruki NAGATA, Teruyo HORIKAWA “LIPER (Library and Information Professions and Education Renewal) Project in

Japan.” Section for Education and Training, IFLA World Library and Information Congress(Oslo) 2005.08.

河西由美子・堀川照代・根本彰「学校図書館運営担当者を対象としたフォーカス・グループ・インタビュー調査に関する報告—LIPER 学校図書館班—」日本図書館情報学会春季研究集会 2005年5月(専修大学)

堀川照代・平久江祐司・片岡則夫・河西由美子・中村百合子・根本彰「学校図書館の業務に関する調査研究：情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究」日本図書館情報学会研究大会 2004年10月(関西大学)

<講演・シンポジウム>

「これからの教育と学校図書館」『今日の学校図書館』第34回全国学校図書館研究大会(びわこ・くさつ大会)研究集録 2004 p.182-192.

「デジタル情報環境は図書館に何をもたらすのか—レファレンスサービス再考」『平成16年度第90回香川大会全国図書館大会記録』香川県立図書館 2004 p.55-61

「図書館と出版流通の関係について考える——書誌コントロール論の立場から」『平成16年度第90回香川大会全国図書館大会記録』香川県立図書館 2004 p.471-479

「図書館の未来を語る——地域と学校は何を求めているか」『平成16年度静岡県図書館大会記録集』静岡県教育委員会・静岡県図書館協会・静岡県読書推進運動協議会 2004年11月22日

「インターネットは図書館に何をもたらすか——これまでの10年とこれから」『富山県図書館研究集録』第36号 富山県図書館協会 2005年4月 p.7-25.

鈴木眞理(助教授)

<論文>

「NPO・ボランティア活動と生涯学習支援者」『新しい時代の生涯学習支援』(日本生涯教育学会年報第25号)2004年11月, p.169-181.

「公民館における自己点検・自己評価の意義と必要性」国立教育政策研究所社会教育実践研究センター『社会教育事業の評価指標の開発に関する調査研究報告書』2005年3月, p.4-7

「社会教育の施設」国立教育政策研究所社会教育実践研究センター『生涯学習概論ハンドブック』2005年3月, p.101-106.

「生涯学習社会と社会教育施設」『都市問題研究』第57巻第5号, 2005年5月, p.74-87.

<調査報告書>

「社会教育における非常勤職員・ボランティア論—問題の設定」社会教育計画研究会『社会教育施設の非常勤職員・ボランティアに関する調査研究報告書—豊田市・袖ヶ浦市の事例—』2005年3月, p.1-6.

勝野正章(助教授)

<著書・分担執筆>

「現代社会における『専門職としての教師』—『生徒による授業評価』を手がかりに考える」堀尾輝久・浦野東洋一編『日本の教員評価に対するILO・ユネスコ勧告』(つなん出版, 2005年6月, 221p.)pp.71~83

「イギリスにおける教職員不祥事への対応」八尾坂修編集『教員の不祥事を防止する学校マネジメント』(教育開発研究所, 2005年8月, 223p.)pp.208~211

<学会誌>

「国際教育法規範からみた『指導力不足教員』・教員評価政策と法制度」日本教育法学会編『日本教育法学会年報 第34号 教育における公共性の再構築』(2005年3月, 有斐閣)pp.171~172(小島優生と共著)

「国内の教育政策研究動向」日本教育政策学会年報第12号『教育政策と政策評価を問う』(2005年7月, 八月書館)pp.178~185(宮盛邦友と共著)

<雑誌論文, その他>

「教員評価で問われる『専門職としての教師』」『季刊高校のひろば』vol.54(2004年12月, 旬報社)pp.22~27

「教育基本法『改正』と教育の危機」『住民と自治』2005年5月号(自治体研究社)pp.34~37

「図書紹介 黒崎勲著『新しいタイプの公立学校 コミュニティ・スクール立案過程と選択による学校改革』」日本教育学会『教育学研究』第72巻第2号 pp.103~104

「教職員からみた教員評価」『高校教育』2005年7月号(学事出版)pp.40~43

「連載 学校を訪れる 支えあって学び, 成長する子どもと若者たち—寄宿舎夏祭りと学校づくり協議会—埼玉県立盲学校」『季刊 高校のひろば』vol.57(2005年9月, 旬報社)pp.58~63

<学会発表>

- 日本教育学会・中部教育学会 中部地区教育公開シンポジウム 第2回公開研究会「『教員評価』問題と学校づくり」名古屋大学, 2005年5月21日
- 全国私立大学教職課程研究連絡協議会 第25回研究大会「教員評価政策の検討～外国の動向を踏まえて～」南山大学, 2005年5月22日
- 日本平和学会 2005年度春季研究大会「教員人事考課のマイクロポリティクス—評価の暴力性と抵抗の可能性—」立教大学, 2005年6月4日

影 浦 峽(助教授)

<論文>

- “Comparative Analysis of Coauthorship Networks of Different Domains: The Growth and Change of Networks” (F. Yoshikane and K. Kageura), *Scientometrics*, vol.60, no.3, October 2004. pp.433-444.
- 「いわゆる順位頻度分布と頻度度数分布との関係について」『日本語の研究』(旧『国語学』)vol.1, no.1, January 2005. pp.104-108.
- 「自然言語処理と言語実体化の効用」『言語』 vol.34, no.4, April 2005. pp.74-81.

<招待講演・チュートリアル>

- 「テキストと用語の間：コーパスからの用語抽出と構造化」第24回医療情報学連合大会・第5回日本医療情報学会学術大会ワークショップ「医学オントロジーとターミノロジー・モデルの動向」2004年11月 名古屋 招待講演.
- 「コーパスと語彙の間——語の重み付け尺度の意味づけをめぐる——」言語処理学会第11回年次大会 2005年3月 高松 チュートリアル講演.

<学会発表>

- 「情報媒体構造論の構想と方法的考察」『第51回日本図書館情報学会研究大会』2004年11月 東京, pp.21-24.
- 「レファレンス・ツールとしてのWeb日英人名検索システム」(辻慶太と共著), 『第51回日本図書館情報学会研究大会』2004年11月 東京, pp.45-48.
- 「ウェブからの関連語・下位語の収集手法の検討と検索システムへの応用」(芳鐘冬樹, 辻慶太と共著), 『第51回日本図書館情報学会研究大会』2004年11月 東京, pp.113-116.
- “Multilingual Story Link Detection based on Event Term Weighting on Times and Multilingual Spaces”

(K-S. Lee and K. Kageura) *7th International Conference on Asian Digital Libraries*, Shanghai, December 2004, pp.398-407.

- “On the Nature of ‘Japanese Language’ in News Reporting” (K. Kageura and K. Tsuji), *Actas-II of the IX Simposio Internacional de Comunicacion Social*, Santiago de Cuba, January 2005, pp.861-864.
- 「対訳人名検索における翻字・サーチエンジンの有効性評価」(辻慶太, 佐藤理史と共著), 『言語処理学会第11回年次大会発表論文集』2005年3月 高松, pp.352-355.
- 「研究の場としての評価型ワークショップになるために」(関根聡, 奥村学, 乾健太郎と共著), 『言語処理学会第11回年次大会併設ワークショップ「評価型ワークショップを考える」論文集』2005年3月 高松, pp.47-50.

<書評>

「井上真琴著『図書館に訊け!』」『日本図書館情報学会誌』2005年9月 vol.51, no.3, 2005年9月 p.143.

<その他>

- 「本：世界をカバンに入れて」三浦逸雄監修・根本彰他編『図書館情報学の地平：50のキーワード』東京：日本図書館協会 2005年3月 pp.11-17.
- 「図書館：印刷された紙の果てしなき繁茂」三浦逸雄監修・根本彰他編『図書館情報学の地平：50のキーワード』東京：日本図書館協会 pp.189-194.
- 「電子図書館：世界の記憶装置に向けた過渡的システム」(辻慶太と共著)三浦逸雄監修・根本彰他編『図書館情報学の地平：50のキーワード』東京：日本図書館協会 pp.195-200.
- 「eラーニング：新たな図書館サービスの契機」(辻慶太と共著)三浦逸雄監修・根本彰他編『図書館情報学の地平：50のキーワード』東京：日本図書館協会 pp.146-151.

三 浦 太 郎(助手)

<著書・編著, 分担執筆>

- 「学術雑誌：その誕生から現在までを振り返る」根本彰ほか編『図書館情報学の地平：50のキーワード』日本図書館協会, 2005.3, pp.24-30.
- 「大学：日本とアメリカで学部学生が学ぶこと」同上, pp.157-164.

<雑誌論文>

Hiroshi Kawai, Tomio Ide, Marie Kinjo, Asuka

Kimura, Yukihiko Makie, Taro Miura, Tadashi Takenouchi, und Harumi Yakushiin "Trends der Bibliotheksentwicklung in Japan," Bibliothek: Forschung und Praxis, vol.28, no.3, 2004.12, pp. 303-318.(分担執筆部分: "13. Bibliothekareische Vereine", "14. Ausbildung der Bibliothekars" pp. 315-317.)

<報告>

「占領期初代図書館担当官キーニーの図書館制度構想:『低予算で図書館サービスを実施するためのプログラム』(1948)にみる図書館サービスの枠組み」『戦後教育文化政策における図書館政策の位置づけに関する研究』(占領期図書館研究 第3集)平成14・15年度科学研究費補助金(基盤研究C(2))研究成果報告書, 研究代表者・根本彰, 2005.3, pp. 33-54.

<その他>

「イギリスの図書館」『情報の科学と技術』vol.54, no.12, 2004.12, p.658.

「文献紹介 日本の戦後図書館史」『Library and Information Science』no.50, 2005.2, p.23.

“Brief Information on Librarianship in Japan” Japan Library Association, 2005.3, 6p.(編集)

「戦後占領期における東京大学ライブラリースクール設立構想について」『東京大学史料室ニュース』no.34, 2005.4, pp.1-2.

「年表 外国編(1800年以降)」『図書館ハンドブック』日本図書館協会, 2005.5, pp.581-622.

<学会発表>

「占領期初代図書館担当官キーニーの描いた戦後図書館制度構想:『低予算で図書館サービスを実施するためのプログラム』(1948)に基づいて」日本図書館情報学会春季研究集会, 2005年5月28日, 専修大学.

身体教育学コース

武藤芳照(教授)

<編著書>

『運動と年齢—整形外科系』, スポーツ医学研修ハンドブック; 53-61(分担執筆), 文光堂, 2004.11

『関節痛と水中運動』, 順天堂のやさしい医学⑨関節痛; 88-118, (分担執筆), 学生社, 2005.6

<論文>

「転倒予防への医学的対応」(黒柳律雄らと共著), NEW MOOK 整形外科 No.16; 151-160, 2004

「『運動器の10年』運動への学校教育・体育活動からの対策と目標」, 日本医師会雑誌 vol.32 No.7; 967-970, 2004

「体力の立体像」理学療法 Vol.22, No.1; 3, 2005

「整形外科医とスポーツ医学:現状と今後の課題—予防と教育の立場から—」(長谷川亜弓らと共著), 日本整形外科学会雑誌 vol.79, No.2: 199-203, 2005

「若年野球選手の上肢・下肢の可動域について—障害予防の観点から—」(高橋亮輔らと共著), 身体教育医学研究第6巻1号; 31-37, 2005

「転倒予防自己効力感尺度の信頼性・妥当性の検討」(征矢野あや子らと共著)身体教育医学研究第6巻1号; 21-30, 2005

「生きがい型介護予防支援事業利用者の移動能力, 転倒恐怖と外出状況」(征矢野あや子らと共著), 身体教育医学研究第6巻1号; 49-55, 2005

「地域在住の高齢男性における転倒恐怖と関連要因についての研究」(上岡洋晴らと共著), 身体教育医学研究第6巻1号; 57-61, 2005

「水泳における肩の動き」(石川知志らと共著), 整形・災害外科第48巻第5号; 487-494, 2005

「スポーツ医学Q&A」(奥泉宏康と共著), 臨床スポーツ医学 Vol.22, No.6; 762-765, 2005

「『運動器の10年』世界運動の中での日本「運動器と学校健診」」(長谷川亜弓らと共著), The Bone vol.19 No.4; 29-35, 2005

「スポーツ医学Q&A」(奥泉宏康と共著), 臨床スポーツ医学 Vol.22, No.7; 883-888, 2005

「運動器と学校医—スポーツ障害・生活習慣病予防のための適正な運動・スポーツのあり方」, 日本医師会雑誌第134巻第4号別冊; 43-48, 2005

<報告書等>

「ジュニアテニスプレーヤーの肩関節・股関節可動域および上肢・下肢周径について—障害予防の観点から—」(高橋亮輔らと共著), 身体教育医学研究第5巻1号; 25-29, 2004

「スポーツ指導者論考—名伯楽の科学—」(石井宏らと共著), 身体教育医学研究第5巻1号; 37-44, 2004

<解説・レポート>

転倒と動脈硬化, 別冊「ナーシング・トゥデイ」話題の医療と薬の知識; 126-130, 2004

第1回転倒予防医学研究会を主催して, 整形外科 vol.56 No.3; 359-362, 2005

転倒予防ワンポイント講座①転倒は結果であり、原因でもある、メディカル朝日別冊第34巻第7号、2005

<学会発表>

「中高年のマスターズ水泳中の重篤な事故例と問題点」(上野勝則, 武藤芳照), 第15回日本臨床スポーツ医学会, 2004年10月 大阪

「The Effect of the Multicomponent Exercise on Bone Mineral Density and Fall Risk Factors in Osteoporotic Women」(H. Park, S. Park, T. Komatsu, S. Park, T. Kaminai, H. Okuizumi, Y. Mutoh), American Society for Bone and Mineral Research 26th Annual Meeting, 2004年10月 Washington DC

「学校スポーツによる児童・生徒の体力向上と健康増進」(武藤芳照, 長谷川亜弓, 長谷川伸, 太田美穂, 藤澤幸三), 第78回日本整形外科学会学術総会, 2005年5月 横浜

「スポーツ・健康医学の実践と教育—学校での身体教育から高齢者の介護予防・介護職場での腰痛予防まで—」(武藤芳照), 第28回日本プライマリ・ケア学会学術集会, 2005年5月 京都

「医療機関における転倒予防教室—その内容と効果—」(奥泉宏康, 武藤芳照, 長谷川亜弓, 太田美穂, 黒柳律雄), 第42回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2005年6月 金沢市

「住民参加型祭りによる転倒予防効果—YOSAKOIソーラン祭り参加中高年者の検討—」(長谷川伸, 長谷川亜弓, 武藤芳照), 第42回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2005年6月 金沢市

「転倒予防教室」の修了後の運動継続状況と身体機能の推移」(長谷川亜弓, 武藤芳照, 太田美穂, 長谷川伸, 奥泉宏康, 黒柳律雄), 第42回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2005年6月 金沢市

「Multidimensional Community-Based Exercise and Reduction of the Risk for Hip Fracture in Elderly Women」(Park Hyun Tae, Kim Eun Hee, Kwon Yoo Chan, Park Sang Kab, Mutoh Yoshiteru), 日本生理人類学会第53回大会, 2005年6月 長崎市

<学術講演等>

「高齢者の転倒・骨折予防教室の基本理念と実践活動」, 第1回三重県医師会スポーツ医学研修会, 2004年11月 津市

「高齢者の転倒・骨折リスク評価とその予防のため

の運動処方」, 第108回西日本整形災害・外科学会ランチョンセミナー, 2004年11月 沖縄県宜野湾市

「高齢者の転倒・骨折, 介護予防」, 第200回岡山県臨床整形外科医会研修会, 2004年12月 岡山市

「運動器と学校医—スポーツ障害・生活習慣病予防のための適正な運動・スポーツのあり方—」, 平成16年度学校医講習会, 2005年2月 東京都

「高齢者の転倒・骨折・介護予防のための運動処方」, 第44回佐賀リハビリテーション研究会, 2005年4月 佐賀市

「スポーツ医学と介護予防の実践・教育」, 大阪臨床整形外科医会研修会, 2005年5月 大阪市

「スポーツ・健康医学の実践と教育—学校保健から介護予防まで—」, 島根県医師会学校医部会, 島根県医師会健康スポーツ医部会研修会, 2005年6月 松江市

「転倒・骨折・介護予防の実践と教育」, 第9回奈良県病院協会講演会, 2005年9月 奈良市

衛藤 隆(教授)

<著書・分担執筆>

「総論」財団法人日本学校保健会編『学校保健の動向』(平成16年度版), pp.23, 日本学校保健会, 2004

「C.心身の発達」独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター編『青少年問題に関する文献集第35巻』pp.26-37, 2005

「学校保健」平野かよ子, 山田和子, 曾根智史, 他編『ナーシング・グラフィカ(8)社会と生活者の健康—公衆衛生と関係法規』pp.299-316, メディカ出版, 2005

「学校保健と健康教育」平山宗宏, 中村 敬, 川井尚編『育児の事典』pp.130-133, 朝倉書店, 2005

「食習慣と心の健康」金田雅代編著『栄養教諭 理論と実際』pp.57-60, 東京, 2005

「健康の考え方・とらえ方」「健康を科学する」「思春期の特徴」「思春期のからだ」「小児と事故」「事故の予防」「ケアと応急処置」「教育の考え方」「教育制度」衛藤 隆, 近藤洋子, 杉田克生, 村田光範編『新世紀の小児保健』第2版, pp.10-11, 12-13, 138-139, 140-141, 171-172, 173-175, 176-177, 182-184, 185-188, 日本小児医事出版社, 2005

<論文>

「Health Promoting School の概念と実践」(永井大樹, 丸山東人, 張 形, 露木 玲との共著)東京大学

大学院教育学研究科紀要第44巻, 451-456, 2005

<総説>

「学校健診の意義と事後指導. 特集健診・人間ドック後指導の実際」『クリニカルプラクティス』23(12): 1139-1142, 2004

「学校の健康診断とは? その意義と歴史」『小児内科』37(4): 413-417, 2005

<報告書>

平成14-16年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C)研究課題番号: 14580018)『学校における保健科と体育科の合科成立史研究』報告書: p.1-144, 2005

平成16年度厚生労働科学研究(子ども家庭総合研究事業)研究協力「母子健康手帳のさらなる活用に関する研究Ⅲ」『乳幼児期から思春期まで一貫した子どもの健康管理のための母子健康手帳の活用に関する研究』(主任研究者: 小林正子)報告書: p.7-53, 2005

<学会発表>

「子どもの事故防止から“Safe Community”へ」教育講演2, 第51回日本小児保健学会, 2004年10月29日, 盛岡市, 記録: 小児保健研究, 64(2): 175-179, 2005

<講演>

「心臓病・腎臓病・糖尿病を有する児童生徒の健康管理のポイント」平成16年度児童生徒の心身の健康問題に対応するための指導者の養成を目的とした研修, 独立行政法人教員研修センター, 2004年11月10日

「学校の保健管理をめぐる最近の話題」第32回尾東地区学校保健研究大会, 知多市勤労文化会館つつじホール, 2004年11月11日

「これからの学校保健の展望—学校歯科保健への期待—」第39回東京都学校歯科保健研究大会, 文京シビックホール小ホール, 2005年2月17日

「これからの学校保健に期待される医師の役割」第27回宮城県医師会学校保健研修会, 宮城県医師会館ホール, 2005年3月12日

「学校における健康診断」平成17年度学校医会研修会, 茨城県医師会会議室, 2005年4月21日

「子どもの事故防止から“Safe Community”へ」第14回中国四国小児保健学会・特別講演, 鳥取県西部医師会講堂, 2005年6月25日

<その他>

(巻頭言)「健康づくりからみた子どもの健康」青少年

問題, 51(10)(通巻604号): 2-3, 2004

(ラジオコメント)「コメント」グッドモーニングジャパン「体力づくり強調月間」, 2004年10月3日放送, TBS ラジオ, 内閣府提供政府公報番組.

(ラジオコメント)「子どものぜんそく過去最多」NHK ニュース, 2004年12月16日放送

(シンポジウム座長)シンポジウム「各科専門医の学校保健活動」平成16年度学校医講習会, 日本医師会館, 2005年2月26日

(ラジオ収録)「学校健診の意義と事後指導」BS ラジオ NIKKEI「薬学の時間」2005年3月8日収録, 2005年4月6日放送

(巻頭言)「特集: 子どもの集団生活と心身の健康」小児科臨床, 58(4)(通巻683号): 485, 2005

(序文)「序—子どもたちを今日の危ない状況から守る」小児内科, 37(7): 856-857, 2005

山本 義春(教授)

<論文>

Yamamoto, Y., Z. R. Struzik, R. Soma, K. Ohashi, and S. Kwak. Noisy vestibular stimulation improves autonomic and motor responsiveness in central neuro-degenerative disorders. *Annals of Neurology* 58: 175-181, 2005.

Kiyono, K., Z. R. Struzik, N. Aoyagi, F. Togo, and Y. Yamamoto. Phase transition in healthy human heart rate. *Physical Review Letters* 95: 058101-1-4, 2005.

Saito, M., H. Kumano, K. Yoshiuchi, N. Kokubo, K. Ohashi, Y. Yamamoto, N. Shinohara, Y. Yanagisawa, K. Sakabe, M. Miyata, S. Ishikawa, and T. Kuboki. Symptom profile of multiple chemical sensitivity in actual life. *Psychosomatic Medicine* 67: 318-325, 2005.

Struzik, Z. R., J. Hayano, S. Sakata, S. Kwak, and Y. Yamamoto. $1/f$ scaling in heart rate requires antagonistic autonomic control. *Physical Review E* 70: 050901(R)-1-4, 2004.

Kiyono, K., Z. R. Struzik, N. Aoyagi, S. Sakata, J. Hayano, and Y. Yamamoto. Critical scale-invariance in healthy human heart rate. *Physical Review Letters* 93: 178103-1-4, 2004.

Kiyono, K., Z. R. Struzik, and Y. Yamamoto. Phase transition and $1/f$ noise in a modified Bak-Tang-Wiesenfeld sand pile model with time-dependent

- avalanche propagation. In: *Noise and Fluctuations*, Gonzalez, T., J. Mateos, and D. Pardo, editors. American Institute of Physics, pp.807-810, 2005.
- Safonov, L. A., and Y. Yamamoto. Noise-driven switching between limit cycles and adaptability in a small-dimensional excitable network with balanced coupling. In: *Noise and Fluctuations*, Gonzalez, T., J. Mateos, and D. Pardo, editors. American Institute of Physics, pp.615-618, 2005.
- Aoyagi, N., K. Kiyono, Z. R. Struzik, and Y. Yamamoto. Changes in the Hurst exponent of heart rate variability during physical activity. In: *Noise and Fluctuations*, Gonzalez, T., J. Mateos, and D. Pardo, editors. American Institute of Physics, pp. 599-602, 2005.
- Struzik, Z. R., K. Kiyono, J. Hayano, S. Sakata, S. Kwak, and Y. Yamamoto. Criticality and universality in healthy human heart rate dynamics. In: *Noise and Fluctuations*, Gonzalez, T., J. Mateos, and D. Pardo, editors. American Institute of Physics, pp. 549-552, 2005.
- Togo, F., K. Kiyono, Z. R. Struzik, and Y. Yamamoto. Sleep stage dependence of invariance characteristics in fluctuations of healthy human heart rate. In: *Noise and Fluctuations*, Gonzalez, T., J. Mateos, and D. Pardo, editors. American Institute of Physics, pp.545-548, 2005.
- Yamamoto, Y., R. Soma, K. Kitajo, L. A. Safonov, K. Yamanaka, I. Hidaka, K. Ohashi, D. Nozaki, Z. R. Struzik, L. M. Ward, and S. Kwak. Functional roles of noise and fluctuations in the human brain. In: *Noise and Fluctuations*, Gonzalez, T., J. Mateos, and D. Pardo, editors. American Institute of Physics, pp.535-540, 2005.
- Struzik, Z. R., J. Hayano, S. Sakata, S. Kwak, and Y. Yamamoto. Dual antagonistic autonomic control necessary for $1/f$ scaling in heart rate. In: *Fractals in Biology and Medicine IV*, Losa, G. A., D. Merlini, T. F. Nonnenmacher, and E. R. Weibel, editors. Birkhauser, Basel Boston Berlin, pp141-151, 2005.
- Ogata, H., K. Tokuyama, S. Nagasaka, A. Ando, I. Kusaka, N. Sato, A. Goto, S. Ishibashi, K. Kiyono, Z. R. Struzik, and Y. Yamamoto. Long-range correlated glucose fluctuations in diabetes. *Proceedings of the IFMBE/IMIA 5th International Workshop on Biosignal Interpretation*, pp.167-170, 2005.
- Struzik, Z. R., K. Yoshiuchi, M. Sone, T. Ishikawa, H. Kikuchi, H. Kumano, T. Watsuji, B. H. Natelson, and Y. Yamamoto. "Mobile Nurse" platform for ubiquitous medicine. *Proceedings of the IFMBE/IMIA 5th International Workshop on Biosignal Interpretation*, pp.49-52, 2005.
- Aoyagi, N., Z. R. Struzik, K. Kiyono, and Y. Yamamoto. Autonomic imbalance induced breakdown of long-range dependence in healthy heart rate. *Proceedings of the IFMBE/IMIA 5th International Workshop on Biosignal Interpretation*, pp.9-12, 2005.
- Kitajo, K., K. Yamanaka, L. M. Ward, and Y. Yamamoto. Stochastic resonance in attention switching. *Proceedings of SPIE* 5841: 49-56, 2005.
- 相馬りか, 郭伸, 山本義春. 人の中の確率共振と治療への応用. 複雑現象工学—複雑系パラダイムの工学応用—. 独立行政法人・産業技術総合研究所監修. プレアデス出版, 大阪, 2005, pp321-332.
- <招待講演・シンポジウム講演>
- Yamamoto, Y. Functional roles of noise and fluctuations in the human brain. *The 18th International Conference on Noise and Fluctuations*. Salamanca, Spain (September, 2005).
- Yamamoto, Y. Real-time data capture and future of computerized diagnoses and treatment. *Symposium "Ecological momentary assessment: a novel method in psychosomatic medicine (Organizer: Y. Yamamoto)" at the 18th World Congress on Psychosomatic Medicine*. Kobe, Japan (August, 2005).
- Yamamoto, Y. Can electrical vestibular noise be used for the treatment of brain diseases? *Unsolved Problems of Noise and Fluctuations in Physics, Biology and High Technology*. Lecce, Italy (June, 2005).
- 山本義春. 循環調節系の複雑なゆらぎを再現する生理学的モデル. 第6回インシリコヒューマン研究学術集会, 大阪, 2005年9月.
- 山本義春. 循環ホメオスタシスの今日の問題. 計測自動制御学会・生物制御調査研究会, 第1回特別講演, 名古屋, 2005年7月.
- 山本義春, 吉内一浩. 慢性疲労症候群と起立時の神経性循環調節. 第6回 Neurocardiology Workshop

パネルディスカッション「抑うつと自律神経」, 東京, 2005年7月.

山本義春. 大規模心拍変動データの解析法. 心臓分子生物研究会. 名古屋, 2005年6月.

多賀 巖太郎(助教授)

<学会紀要>

Homae, F., Watanabe, H., Nakano, T., Asakawa, K., and Taga, G.: Pitch Processing in the Right Temporo-Parietal Regions of Early Infants: An Optical Topography Study. *Journal of Cognitive Neuroscience* 157-157 Suppl. S, 2005

Saji, R., Watanabe, H., Taga, G.: Statistical Characteristics of Velocity of Movements of Limbs in Young Infants during the Conjugate Reinforcement Mobile Task, *Proceedings of 2005 4th IEEE International Conference on Development and Learning* 204-206, 2005

谷部好子, 多賀巖太郎: 後方への仮現運動—歩行により誘発される視覚性運動知覚, *日本バーチャルリアリティ学会第10回大会論文集*, 2005

<学会発表・講演>

多賀巖太郎: 近赤外光トポグラフィーによる乳児期の脳機能発達研究, 第7回日本ヒト脳機能マッピング学会, 東京, 2005.3.20

保前文高, 渡辺はま, 中野珠実, 浅川佳代, 多賀巖太郎: 右半球側頭・頭頂葉における音声情報処理の発達の变化—近赤外光トポグラフィーを用いた乳児研究, 第7回日本ヒト脳機能マッピング学会, 東京, 2005.3.19

中野珠実, 渡辺はま, 浅川佳代, 保前文高, 多賀巖太郎: 乳児の皮質活動における馴化脱馴化—近赤外光トポグラフィーを用いた研究, 第7回日本ヒト脳機能マッピング学会, 東京, 2005.3.19

多賀巖太郎: 発達脳科学の現状, *日本家庭科教育学会第48回大会*, 前橋, 2005.6.25(招待)

多賀巖太郎, 保前文高, 渡辺はま, 浅川佳代: 大脳皮質における視聴覚応答の初期発達, 第5回日本赤ちゃん学会, 札幌, 2005.7.3

多賀巖太郎: 乳児における発達脳科学研究, *脳の世紀シンポジウム*, 東京, 2005.9.21(招待)

<総説その他>

多賀巖太郎: 赤ちゃんの脳は自ら新しい情報を作る, *学術月報* 58: 344-345, 2005

山中 健太郎(助手)

<論文>

武田祐輔 清野健 山中健太郎 山本義春 脳のダイナミクスが単純反応時間に与える影響—脳波からの単純反応時間の予測—, 第20回 生体・生理工学シンポジウム論文集: 97-98, 2005

Kitajo K. Yamanaka K. Ward LM. Yamamoto Y. Stochastic resonance in attention switching. *Proceedings of SPIE* 5841: 49-56, 2005

Kitajo K. Yamanaka K. Nozaki D. Ward LM. Yamamoto Y. Behavioral stochastic resonance is associated with large-scale synchronization of human brain activity. *Proceedings of SPIE* 5467: 359-369, 2004

<学会発表>

Yamanaka K. Sakamoto T. Takeda Y. Yamamoto Y. Gamma-band long-range phase synchronization during binaural auditory beat perception. *Society for Neuroscience 34th Annual Meeting*, 23-27 October 2004, San Diego, California, USA

<招待講演など>

山中健太郎 EEGの同期現象と認知プロセスに関する最近の研究. *運動と神経筋研究・特別シンポジウム*. 2004.12.4, 国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所, 所沢市(埼玉県)

澤井 和彦(助手)

<論文・論評・報告書>

澤井和彦・高橋義雄「本学におけるスポーツの資源配分の制度とピア・ツー・ピア・ネットワークの可能性に関する研究—インターネットを活用したスポーツ施設の運営システムの開発とその運用による検討—」, *東京大学教育学部研究紀要*, p.457-468, 2005(平成17年)年3月

<学会発表>

澤井和彦「制度からみた運動・スポーツ活動に関する比較計量的研究—SSFスポーツライフ・データの二次分析—」*日本スポーツ産業学会*(2005.7.23, 神戸)

間野義之, 澤井和彦, 小倉俊之, 小坂伸吉, 山谷拓志「ワークショップ; 日本のスポーツリーグのビジネスモデルを考える(その3)」*日本スポーツ産業学会*(2005.7.24, 神戸)

澤井和彦, 中澤篤史, 新雅史, 横田匡俊, 間野義之「公共スポーツ施設利用者に関する調査研究(1)」

- ～SSF スポーツライフ・データの二次分析～」日本スポーツ社会学会(2005,3,22, 東京)
- 中澤篤史, 澤井和彦, 新雅史, 横田匡俊, 間野義之「公共スポーツ施設利用者に関する調査研究(2)～『常連』とはどのような人たちなのか?～, 日本スポーツ社会学会(2005,3,22, 東京)
- 新雅史, 澤井和彦, 中澤篤史, 横田匡俊, 間野義之「公共スポーツ施設利用者に関する調査研究(3)～スポーツ実践とジェンダー～」日本スポーツ社会学会(2005,3,22, 東京)
- Zbigniew R. Struzik(特任助教授)
- <論文>
- Kotani, K., Z. R. Struzik, K. Takamasu, H. E. Stanley, and Y. Yamamoto. Model for complex heart rate dynamics in health and diseases. *Physical Review E* 72: 041904-1-8, 2005.
- Yamamoto, Y., Z. R. Struzik, R. Soma, K. Ohashi, and S. Kwak. Noisy vestibular stimulation improves autonomic and motor responsiveness in central neurodegenerative disorders. *Annals of Neurology* 58: 175-181, 2005.
- B. Enescu, K. Ito, Z. R. Struzik, Wavelet-based Multifractal Analysis of Real and Simulated Time-Series of Earthquakes, *Geophysical Journal International*, *in press*, 2005.
- Struzik, Z. R., K. Yoshiuchi, M. Sone, T. Ishikawa, H. Kikuchi, H. Kumano, T. Watsuji, B. H. Natelson, and Y. Yamamoto. "Mobile Nurse" platform for ubiquitous medicine. Proceedings of the IFMBE/IMIA 5th International Workshop on Biosignal Interpretation, pp.49-52, 2005.
- Jelinek, H. F., G. Járos, Z. R. Struzik, Heart rate variability changes in acute hyperglycaemia, Proceedings of the IFMBE/IMIA 5th International Workshop on Biosignal Interpretation, pp.13-16, 2005.
- Kiyono, K., Z. R. Struzik, N. Aoyagi, F. Togo, and Y. Yamamoto. Phase transition in healthy human heart rate. *Physical Review Letters* 95: 058101-1-4, 2005.
- Struzik, Z. R., J. Hayano, S. Sakata, S. Kwak, and Y. Yamamoto. Dual antagonistic autonomic control necessary for $1/f$ scaling in heart rate. In: *Fractals in Biology and Medicine IV*, Losa, G. A., D. Merlini, T. F. Nonnenmacher, and E. R. Weibel, editors. Birkhauser, Basel Boston Berlin, pp.141-151, 2005.
- Struzik, Z. R., A. Glatz, M. S. Li, $1/f$ noise in a one-dimensional charge density wave system, *Europhysics Letters* 66: 385-391, 2004.
- Orlowski, A., Z. Struzik, E. Syczewska, M. A. Zaluska-Kotur, Fluctuations Dynamics of Exchange Rates on Polish Financial Market, *Physica A* 344, 184-189, 2004.
- Struzik, Z. R., J. Hayano, S. Sakata, S. Kwak, and Y. Yamamoto. $1/f$ scaling in heart rate requires antagonistic autonomic control. *Physical Review E* 70: 050901(R)-1-4, 2004.
- Kiyono, K., Z. R. Struzik, N. Aoyagi, S. Sakata, J. Hayano, and Y. Yamamoto. Critical scale-invariance in healthy human heart rate. *Physical Review Letters* 93: 178103-1-4, 2004.
- Kiyono, K., Z. R. Struzik, and Y. Yamamoto. Phase transition and $1/f$ noise in a modified Bak-Tang-Wiesenfeld sand pile model with time-dependent avalanche propagation. In: *Noise and Fluctuations*, Gonzalez, T., J. Mateos, and D. Pardo, editors. American Institute of Physics, pp.807-810, 2005.
- Aoyagi, N., K. Kiyono, Z. R. Struzik, and Y. Yamamoto. Changes in the Hurst exponent of heart rate variability during physical activity. In: *Noise and Fluctuations*, Gonzalez, T., J. Mateos, and D. Pardo, editors. American Institute of Physics, pp. 599-602, 2005.
- Struzik, Z. R., K. Kiyono, J. Hayano, S. Sakata, S. Kwak, and Y. Yamamoto. Criticality and universality in healthy human heart rate dynamics. In: *Noise and Fluctuations*, Gonzalez, T., J. Mateos, and D. Pardo, editors. American Institute of Physics, pp. 549-552, 2005.
- Togo, F., K. Kiyono, Z. R. Struzik, and Y. Yamamoto. Sleep stage dependence of invariance characteristics in fluctuations of healthy human heart rate. In: *Noise and Fluctuations*, Gonzalez, T., J. Mateos, and D. Pardo, editors. American Institute of Physics, pp.545-548, 2005.
- Yamamoto, Y., R. Soma, K. Kitajo, L. A. Safonov, K. Yamanaka, I. Hidaka, K. Ohashi, D. Nozaki, Z. R. Struzik, L. M. Ward, and S. Kwak. Functional

- roles of noise and fluctuations in the human brain. In: *Noise and Fluctuations*, Gonzalez, T., J. Mateos, and D. Pardo, editors. American Institute of Physics, pp.535-540, 2005.
- Struzik, Z. R., J. Hayano, S. Sakata, S. Kwak, and Y. Yamamoto. Dual antagonistic autonomic control necessary for $1/f$ scaling in heart rate. In: *Fractals in Biology and Medicine IV*, Losa, G. A., D. Merlini, T. F. Nonnenmacher, and E. R. Weibel, editors. Birkhauser, Basel Boston Berlin, pp.141-151, 2005.
- Ogata, H., K. Tokuyama, S. Nagasaka, A. Ando, I. Kusaka, N. Sato, A. Goto, S. Ishibashi, K. Kiyono, Z. R. Struzik, and Y. Yamamoto. Long-range correlated glucose fluctuations in diabetes. *Proceedings of the IFMBE/IMIA 5th International Workshop on Biosignal Interpretation*, pp.167-170, 2005.
- Struzik, Z. R., K. Yoshiuchi, M. Sone, T. Ishikawa, H. Kikuchi, H. Kumano, T. Watsuji, B. H. Natelson, and Y. Yamamoto. "Mobile Nurse" platform for ubiquitous medicine. *Proceedings of the IFMBE/IMIA 5th International Workshop on Biosignal Interpretation*, pp.49-52, 2005.
- Aoyagi, N., Z. R. Struzik, K. Kiyono, and Y. Yamamoto. Autonomic imbalance induced breakdown of long-range dependence in healthy heart rate. *Proceedings of the IFMBE/IMIA 5th International Workshop on Biosignal Interpretation*, pp.9-12, 2005.
- Struzik, Z. R., A. Glatz, M. S. Li, Search for $1/f$ Noise in One-Dimensional Charge Density Wave Systems, in *Proceedings of SPIE: 'Fluctuations and Noise in Materials'*, Eds. D. Popovic, M. B. Weissman, Z. A. Rácz, Vol 5469, pp.328-336, SPIE, 2004.
- Heinrichs, S., Z. R. Struzik, J. Hayano, Y. Yamamoto, Probing temporal correlation in ventricular interbeat intervals during atrial fibrillation with local continuous DFA, in *Proceedings of SPIE: 'Fluctuations and Noise in Biological, Biophysical, and Biomedical Systems II*, Eds. D. Abbott, S. M. Bezrukov, A. Der, A. Sánchez, Vol 5467, pp.404-410, SPIE, 2004.
- Struzik, Z. R., *Econophysics versus Cardiophysics, Econophysics vs Cardiophysics: the Dual Face of Multifractality*. In H. Takayasu (Ed.), *The Applications of Econophysics*, pp.210-215, Springer-Verlag, Tokyo, 2004.
- <招待講演・シンポジウム講演>
- Struzik, Z. R. *Recent Advancement in Modeling and Analysis of Scale-Invariant Dynamics: from Gene (Physiology, Internet) To Economics, Criticality and Universality of Healthy Heart Rate*, Tokyo, (November 2004).
- 大学経営・政策コース
金子元久(教授)
- <編著・共著>
- 金子元久編著『日英大学のベンチマーキング』, 東京大学大学総合教育研究センター, 2004年11月1日, ページ
- "Japan's Higher Education: The Past, Its Legacies and the Future," P. Altbach & T. Umakoshi eds. *Past and Future of Asian Higher Education*: Baltimore: Johns Hopkins University Press, 2004. pp.115-144
- 「国立大学法人化の射程」, 江原武一編『大学の管理運営改革』, 東信堂, 2004. Pp.49-71.
- <論文>
- 「教育経済学的20年」, 『教育と経済』2005年第1期, pp.1-5.
- 「営利性大学: 背景・現状・可能性」, 『北京大学教育評論』2005年第2期, pp.17-22.
- 「ヨーロッパ版大学法人化—オーストリアの大学改革」, 『IDE—現代の高等教育』472(2005年7-8月), pp.69-73.
- 「大学のスタッフ・デベロップメント—必要性和可能性」, 『IDE—現代の高等教育』469(2005年4月), pp.11-18.
- 「成熟社会の大学教育と職業」, 『IDE—現代の高等教育』467(2005年2月), pp.3-12.
- 「大学ファンディングの展望」, 『IDE—現代の高等教育』465(2004年11-12月), pp.5-13.
- 「特集: 新生国立大学—生まれてはみたけれど」, 『カレッジマネーメント』128(2004年9-10月), pp.5-7
- <国際会議発表論文>
- "Marketization of Higher Education-Trends, Issues and Prospects," *International Seminar on University Management and Higher Education Policies-Trends, Issues and Prospects*, Tokyo, (19-20

September 2005).

“Educational Reforms in the Japanese Context An Overview,” 4th International Symposium on Core Academic Competences: Policy Issues and Educational Reform.” Tokyo(23-24 July, 2005).

“Japan’s Incorporated National Universities - Design, Reality and Prospects,” *International Lecture Series, Korean Educational Development Institute*, Seoul, Korea. (19 November 2004).

“Education and Training in Japan—Limits, Issues and Prospects for the 21st Century—,” Paper Prepared for 7th Anniversary International Seminar on Linkage between Higher Education and Labor Market, Korean Research Institute for Vocational Education and Training(Seoul, November 17th through 18th, 2004)

山本 清(教授)兼(財務・経営センター)

<著書>

『「政府会計」改革のビジョンと戦略』編著 2005.7
中央経済社

<論文>

“Does Devolved Government Result in Successful Outcomes?”単著 2004.10 EIASM Conference* on Accounting, Auditing and Management in Public Sector Reform

“Performance of Semi-Autonomous Public Bodies: Linkage between Autonomy and Performance in Japanese Agencies” 単著(forthcoming) (accepted) *Journal of Public Administration and Development**

“Budgeting, Accounting and Evaluation in the Public Sector” 単著 2005.5. CIGAR Conference*

“Corporatization of National Universities in Japan: An analysis of the impact on governance and management” 単著 2005.9. International Seminar on Marketization of Higher Education

「大学に対する公的ファンディング」単著 2004.11
「現代の高等教育」第465号

「大学の格付けと評価」単著 2005.3.「大学論集」第35集

「行政サービスの多様化」単著 2005.3. ECO-FORUM, Vol.23, No.3.

「政府監査の基礎構造」共著 2005.5.『政府監査基準の構造』(同文館)第1章

「学内の予算配分」共著 2005.6『国立大学における

資金の獲得・配分・利用状況に関する総合的研究』国立大学財務・経営センター研究報告第9号 第3章

「資源配分と資源管理」単著 2005.6 同上第9章

「ポルトガルの高等教育における財政改革とわが国への教訓」単著 2005.8.『大学財務経営研究』第2号

「パブリックガバナンス—公共空間での政策主体—」単著 2005.9.『政策研究のメソドロジー』(法律文化社)第8章

「パブリックガバナンスと政策評価」単著 2005.9.

『政策形成支援のための政策評価』(NIRA)第1章

「国立大学法人の財務諸表を読む」単著 2005.9.『カレッジマネジメント』第134号

注：*は査読済みのものを示す。

教育測定・カリキュラム開発講座

石井 秀宗(助教授)

<著書>

石井秀宗(2005)「統計分析のここが知りたい—保健・看護・心理・教育系研究のまとめ方」, 文光堂.

<論文>

竹内登美子・石井秀宗・比嘉肖江(2004)術後看護用CAIの学習履歴分析によるコースウェアの評価. 日本看護研究学会雑誌, 27(5), 15-24.

石井秀宗・柳井晴夫・椎名久美子・前田忠彦・鈴木規夫・荒井克弘・大竹洋平(2005)大学生の学習意欲と学力低下に関する教員の意識についての調査研究. 大学入試センター研究紀要. 34, 1-17.

石井秀宗・椎名久美子・柳井晴夫・岩坪秀一・荒井克弘(2005)基礎学力評価のための国語, 数学, 英語試験問題の開発研究. 大学入試センター研究紀要. 34, 19-58.

林 篤裕・石井秀宗・伊藤 圭・椎名久美子・岩坪秀一・柳井晴夫(2005)医学部・医科大学の医学科における入試のあり方に関する調査研究. 大学入試センター研究紀要. 34, 89-120.

<報告書>

櫻井捷海・椎名久美子・石井秀宗(2004)「5.0/1採点による分析結果」pp.67-125(共著), 「6.モニター調査の分析結果」pp.127-161(共著), 「7.信頼性と妥当性の検証」pp.163-183(共著):平成15年度法科大学院適性試験の分析結果. 大学入試センター研究開発部共同研究「法科大学院適性試験の作成支援に関する研究」報告書.

櫻井捷海・椎名久美子・杉澤武俊・石井秀宗(2005)「5.0/1採点による分析結果」pp.43-82(共著),「6.信頼性と妥当性の検討」pp.83-112(共著),「7.モニター調査の分析結果」pp.113-172(共著):平成16年度法科大学院適性試験の分析結果. 大学入試センター研究開発部共同研究「法科大学院適性試験の作成支援に関する研究」報告書.

<その他>

石井秀宗(2004)被験者はどれくらい集めればよいか(2)—相関係数編. *Quality Nursing*, 10(10), 982-985.

石井秀宗(2004)分散分析における悩み—多重比較, 交互作用. *Quality Nursing*, 10(11), 1077-1079.

石井秀宗(2004)自由度とは. *Quality Nursing*, 10(12), 1203-1205.

伊藤 圭・石井秀宗・大澤公一・林 篤裕・椎名久美子・岩坪秀一・柳井晴夫(2005)総合試験問題の開発と評価—予備調査の結果について. 大学入試センター研究開発部 リサーチノート. RN-04-26.

<学会発表・研究会発表等>

Yanai, H., Takane, Y. & Ishii, H.(2004)Non-negative determinant of a rectangular matrix - Its definition and application to multivariate data analysis. Invited talk at the Thirteen International Workshop on Matrices and Statistics, Mathematical Research and Conference Center at the Polish Academy of Science, Bedlewo, Poland.

柳井晴夫・石井秀宗・椎名久美子・鈴木則夫・荒井克弘(2005)大学生の学習意欲と学力低下に関する調査研究—1991, 1998, 2002, 2004年度の調査結果の比較を中心にして. 国立大学入学者選抜研究連絡協議会第26回大会研究発表予稿集. pp.1-8.

林篤裕・石井秀宗・伊藤圭・椎名久美子・岩坪秀一・柳井晴夫(2005)医学部・医科大学の入試形態とメディカルスクール構想. 国立大学入学者選抜研究連絡協議会第26回大会研究発表予稿集. pp.27-34.

椎名久美子・石井秀宗・柳井晴夫(2005)基礎学力評価のための試作問題の成績に関する入試属性別分析. 国立大学入学者選抜研究連絡協議会第26回大会研究発表予稿集. pp.147-152.

石井秀宗・渡部 洋(2005)再テスト信頼性係数のベイズ推定. 日本テスト学会第3回発表論文抄録集. pp.98-99.

林 篤裕・石井秀宗・伊藤 圭・椎名久美子・岩坪秀一・柳井晴夫(2005)メディカルスクール構想と入

学者選抜方法. 日本テスト学会第3回発表論文抄録集. pp.126-129.

Ishii, H. & Watanabe, H.(2005)A Bayesian inference for the longitudinal data augmented by repeated cross-sectional data. *Bayesian Applied Multivariate Analysis*. pp.69-78.

前田忠彦・柳井晴夫・椎名久美子・石井秀宗(2005)大学生の学習意欲と学力の低下に関する教員の認識調査の分析. 2005年度統計関連学会連合大会. pp.257-258.

石井秀宗(2005)大学生の学力低下・勉学態度等に関する教員の意識—保健・看護学系の特徴. 日本看護研究学会雑誌(第31回日本看護研究学会学術集会). 28(3), 134.

藤井博英・角濱春美・村松 仁・田崎博一・中村恵子・葛西淑子・石井秀宗・森 千鶴(2005)病棟看護師による精神訪問看護システムの特徴と効果. 日本看護研究学会雑誌(第31回日本看護研究学会学術集会). 28(3), 294.

石井秀宗・柳井晴夫・椎名久美子(2004.12.14)「大学生の学習意欲と学力低下に関する大学教員の意識についての調査研究」平成16年度第10回(第251回)大学入試センター研究開発部セミナー.

石井秀宗・椎名久美子・柳井晴夫・岩坪秀一・荒井克弘(2004.12.14)「基礎学力評価のための国語, 数学, 英語試験問題の開発研究」平成16年度第10回(第251回)大学入試センター研究開発部セミナー.
林 篤裕・石井秀宗・伊藤 圭・椎名久美子・岩坪秀一・柳井晴夫(2005.2.15)「医学部・医科大学の医学科における入試のあり方に関する調査研究」平成16年度第11回(第252回)大学入試センター研究開発部セミナー.

張 一 平(助手)

<報告書>

教育及び心理測定領域における理論と技術の開発
平成17年度科学研究費補助金(特別研究員奨励費)
報告書 2005年9月

<翻訳>

大学入試センター 研究開発部 天津考試院歓迎セミナー講演原稿 ①大学入試センター試験問題データベースについて 吉村幸 ②法科大学院適性試験について 椎名久美子 ③大学入試センター試験へのリスニング・テスト導入に向けて 内田照久 2004年12月

林 浩 司(助手)

<論文>

K. Hayashi, N. Furuyama and H. Takase: Intra- and Inter-personal Coordination of Speech, Gesture and Breathing Movements. 人工知能学会誌, Vol.20, No.3, pp.247-258, 2005.

<講演>

音楽とアフォーダンス—楽器演奏における身体—, 日本音楽学会東北・北海道支部 2005年度第1回支部例会, 2005年9月10日, 岩手大学.

<学術会議予稿集>

Nobuhiro Furuyama, Koji Hayashi and Hiroyuki Mishima: Interpersonal Coordination among Articulations, Gesticulations, and Breathing Movements: A Case of Articulation of /a/ and Flexion of the Wrist, Proceedings of the 13th International Conference on Perception and Action, pp.45-48, 2005.

<報告書>

佐々木正人・黄倉雅広・高橋綾・松裏寛恵・西崎実穂・青木洋子・林浩司・宮田雅子・関博紀: 乳児アフォーダンス動画事典の構築: 第一報, 平成16年度文部科学省科学研究費補助金特定領域研究成果報告書(A03), pp.21-26, 2005.

古山宣洋・高瀬弘樹・林浩司: 発話, 身振り, 呼吸の個人内・個人間での協調を生態力学的に制約する情報に関する研究, 平成16年度文部科学省科学研究費補助金特定領域研究成果報告書(A03), pp.35-40, 2005.

学校臨床総合教育研究センター

角 田 真紀子(助手)

<論文>

多重焦点法による学校内コラボレーションの実践展開(共著) 東京大学大学院教育学研究科紀要 44 201-214 2005.3

<報告書>

2004年度東京大学大学院教育学研究科心理教育相談室活動報告 東京大学大学院教育学研究科心理教育相談室紀要 第28集 2005.6

2004年度 こころの相談室「ほっと・ルーム」活動報告 東京大学大学院教育学研究科附属学校臨床総合教育研究センター年報 ネットワーク7(印刷中)

<学会発表>

『授業「総合心理入門」からとらえた生徒の発達プロ

セスと学校内コラボレーションについて—スクールカウンセラーの視点から—』 2005.9 日本心理臨床学会

<講演>

「子どもとよい関係を作っていますか」 東京大学教育学部附属中等教育学校 2005.3

<翻訳>

「第3章アセスメント」50-66: B・カーウェン, S・パーマー, P・ルデル著 下山晴彦監訳『認知行動療法入門』(共訳) 2004.12 金剛出版

<その他雑誌原稿>

Fork in the Road Blowin' in the Wind 東京大学大学院教育学研究科心理教育相談室紀要 第28集 2005.6

基礎学力研究開発センター(COE)

濱 中 淳 子(研究拠点形成特任研究員)

<論文>

「工学系修士課程教育の問題点」『IDE 現代の高等教育』民主教育協会, No.470, 47-52頁, 2005.5.

「工学系卒業者の学習歴—研究室教育の多元的効用—」文部科学省科学研究費補助金最終報告書『工学教育のレリバンス』(研究代表: 矢野眞和), 6-18頁, 2005.3.

<学会発表>

「工学系大卒者の学習歴・キャリア・社会的地位」日本高等教育学会(第8回大会)九州大学 2005.5 (矢野眞和との共同発表).

堀 健 志(研究拠点形成特任研究員)

<論文>

堀健志, 「ポスト学歴社会における進学意欲と学習意欲」刈谷剛彦・志水宏吉編『学力の社会学』岩波書店, 2004年12月, pp173-95.

<学会発表>

堀健志, 「ポスト学歴社会における学習意欲の研究」, 日本子ども社会学会第12回大会, 大阪市立大学, 2005年6月

堀健志, 内田良, 殿岡貴子, 「教育改革と質問紙調査(2)——その社会的構築過程——」, 日本教育社会学会第57回大会, 放送大学, 2005年9月

清 河 幸 子(研究拠点形成特任研究員)

<学会発表>

「スーパーバイズ」型協同に見られる影響過程: 立場

の異なるメンバー間での話し合いが発想の転換に及ぼす影響(自主シンポジウム「対話により創出される思考過程に迫る」話題提供). 日本教育心理学会第46回総会, 富山大学, 2004年10月

Tanaka, D., Kiyokawa, S., & Yamada, A. The role of attention in implicit learning. The 6th Tsukuba International Conference on Memory, Tsukuba International Congress Center, 2005年3月

Izawa, T., Kiyokawa, S., & Ueda, K. Insightful Problem Solving Promoted by Collaboration: The Effect of Role Reversals between Trial and Observation. 12th International Conference on Artificial Intelligence in Education: Workshop 6 "Representing and analyzing collaborative interactions: What works? When does it work? To what extent are methods re-usable?", University of Amsterdam, 2005年7月

清河幸子・植田一博・岡田猛 仮説の情報源が仮説変更に及ぼす影響—反証の果たす役割の検討—.

日本認知科学会第22回大会, 京都大学, 2005年7月
田中大介・清河幸子・山田歩 潜在学習における注意の役割(1)人工文法課題を用いて. 日本心理学会第67回大会, 慶応大学, 2005年9月

清河幸子・田中大介・山田歩 潜在学習における注意の役割(2)—人工文法学習パラダイムを用いた検討—. 日本心理学会第67回大会, 慶応大学, 2005年9月